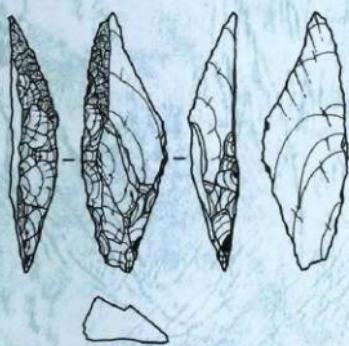


信濃町の埋蔵文化財

長野県上水内郡信濃町

かんのき
貫ノ木遺跡・星光山荘A遺跡

—帝国石油天然ガスパイプライン敷設事業及び道路改良工事に伴う発掘調査報告書—



2010

信濃町教育委員会

長野県上水内郡信濃町

かんのき
貫ノ木遺跡・星光山荘A遺跡

—帝国石油天然ガスパイプライン敷設事業及び道路改良工事に伴う発掘調査報告書—

2010

信濃町教育委員会

例　　言

1. 本書は平成9年度に実施した長野県上水内郡信濃町大字野尻に所在する星光山荘A遺跡、貫ノ木遺跡の発掘調査の内容を記録した報告書である。
2. 星光山荘A遺跡と貫ノ木遺跡の発掘調査は、帝国石油株式会社による天然ガスパイプライン（新東京ライン）敷設工事に伴い、信濃町教育委員会が帝国石油株式会社新東京ライン建設部から受託して実施した。そのため、遺跡名に（帝石パイプライン地点）を付して、今回の調査地点を示す。よって、星光山荘A遺跡（帝石パイプライン地点）、貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）と表記する。なお、この工事に伴い実施した上ノ原遺跡、東裏遺跡、裏ノ山遺跡の発掘調査については既に報告済みである（信濃町教育委員会、2007）。
- また、上記と別地点における貫ノ木遺跡の発掘調査は、国道18号バイパス建築工事に伴う町道の道路改良工事に伴い、信濃町教育委員会が株式会社相模組から受託して実施した。そのため、貫ノ木遺跡（97道路改良地点）と表記する。
3. 本書の執筆、編集は渡辺哲也がおこなった。編集は補佐を藤田桂子がおこなった。
4. 本調査の出土遺物と調査及び整理作業に係る資料はすべて信濃町教育委員会が保管・管理している。遺物の注記記号は星光山荘A遺跡（帝石パイプライン地点）が[97SK]、貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）が[97KN]、貫ノ木遺跡（97道路改良地点）は[97KN(サ)]、である。（サ）とは道路改良を請負った業者が株式会社相模組であったために用いた略号である。
5. 調査にあたり、建設省関東地方建設局長野国道工事事務所（当時）、帝国石油株式会社、新日本製鉄株式会社、株式会社相模組から多大なるご協力を得た。感謝申し上げる次第である。

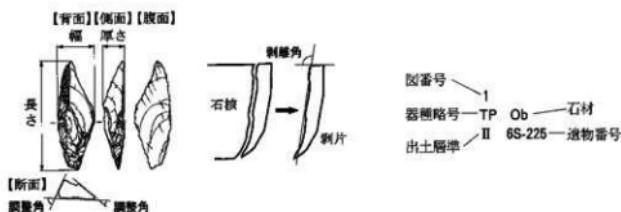
凡　　例

1. 出土した石器については器種及び石材名に対し、略号を用いた。本文中に用いた略号は以下の通りである。

略号	器種	略号	器種	略号	器種	略号	器種
Kn	ナイフ形石器	Tr	台形様石器	TP	有舌尖頭器	Gr	彫器
ES	鏨器	Sc	削器	Dr	離器	GST	研磨面のある石器
RF	二次加工のある剥片	UF	微細剝離面のある剥片	CBl	破付き石刃	Bl	石刃
F1	剥片	BCo	石刃石核	Co	石核	Ax	斧形石器
Wh	礫石	Ha	敲石	AH	石礫	GS	磨石
原石	原石						

略号	石材	略号	石材	略号	石材	略号	石材
Ch	チャート	An	無斑晶質安山岩	Tu	凝灰岩	SS	珪質真岩
Ob	黒曜石	Ag	天藍	GT	緑色凝灰岩	Rh	沸紋岩
And	安山岩	Sa	蛇紋岩	Sa	砂岩	Ru	レキ岩

2. 石器の計測は下記の図のようにおこなった。また、石器を説明する際に用いる用語についても下記の図に準じている。石器実測図に付したキャプションの見方は下記の右側に示したとおりである。



3. 発掘時に移植ゴテ等により付けてしまった新しい剝離面（ガジリ）の部分は、実測図では黒く塗りつぶして表現した。
4. 岩母別分類の石器表面の色は『新版 標準土色帖』[小山・竹原1967]に基づいている。

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査・整理の体制と期間	1
A. 発掘調査	2
B. 整理作業	2
C. 報告書作成	2
D. 調査の経過（調査日誌抄）	2
3. 遺跡周辺の環境	3
A. 地理的環境	3
B. 歴史的環境	3
4. 調査の方法	5
A. 発掘調査	5
B. 調査の位置とグリッドの設定	5
5. 基本層序	5
II 星光山莊 A 遺跡（帝石パイプライン地点）	6
1. 調査の概要	6
2. 出土層準と遺物の分布	7
3. 出土遺物	7
4. 小結	8
III 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）	9
1. 調査の概要	9
2. 出土層準と遺物の分布	10
3. 出土遺物のデータ分析	11
4. 遺構	12
5. 出土遺物	13
6. 旧石器時代の位置づけ	15
IV 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）	29
1. 調査の概要	29
2. 旧石器時代	30
A. 出土層準と遺物の分布	30
B. 出土遺物のデータ分析	30
C. 遺構	31
D. 出土遺物	36
E. 旧石器時代の位置づけ	36
3. 繩文時代以降	37
A. 出土層準と遺物の分布	37
B. 遺構	38
C. 繩文時代の遺物	38
D. 中世の遺物	39
V まとめ	42
文献	42
写真図版	52

I 調査の概要

1. 調査に至る経緯

星光山荘 A 遺跡と貫ノ木遺跡（帝石バイオライン地点）の発掘調査は帝国石油株式会社による天然ガスバイオライン（新東京ライン）敷設工事に伴い実施した。帝国石油株式会社は昭和37年（1962）に新潟県内で産出する天然ガスを公益事業者である都市ガス事業者に対し、原料卸供給を目的として管径300mm、延長304kmの東京ラインを敷設し、以来、沿線の新潟、長野、群馬、栃木、埼玉の都市ガス事業者を通じ、一般家庭を中心約40万戸へ天然ガスの供給をおこなってきた。しかし、ガスの需用が増える中、送ガス能力が限界に達したために、新たに管径500mmのバイオライン（新東京ライン）を敷設することになった。その第一期工事として、新潟県頸城村（現在は上越市）の甄城圧力調整所から信濃町柏原の既設東京ライン柏原遮断バルブ付近に接続し、信濃町富濃までの延長約55kmを平成9年末までに完成させたいということであった。

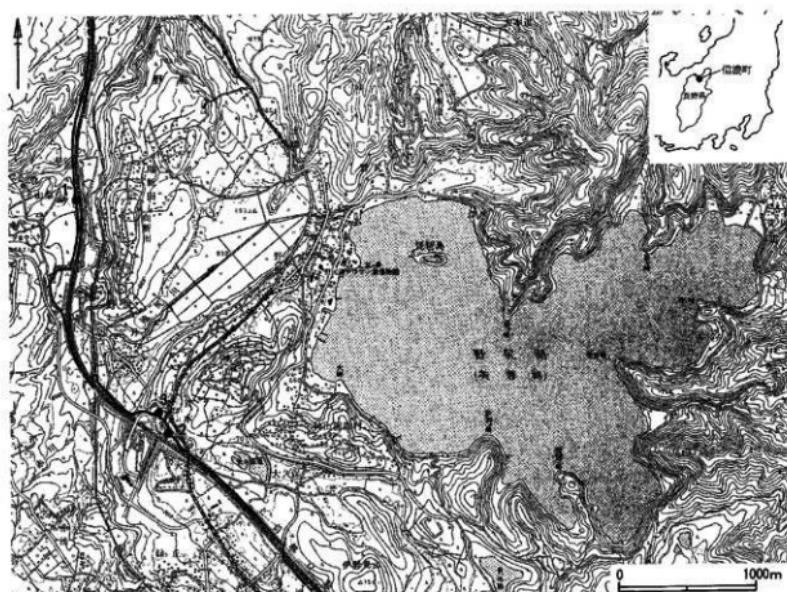
この新東京ラインは建設中の上信越自動車道に沿って敷設される計画であったため、上信越自動車道建設に伴い実施された長野県埋蔵文化財センター（以下、県埋文センターとする）による発掘調査の状況から判断して、調査対象となる遺跡とその面積を割り出し、開発側の工事計画との調整をして、調査の時期と期間を決めた。

信濃町においてこの工事によって調査が必要な遺跡は北から星光山荘 A 遺跡、貫ノ木遺跡、上ノ原遺跡、東裏遺跡、裏ノ山遺跡であった。この内、本書では星光山荘 A 遺跡と貫ノ木遺跡について報告する。なお、上ノ原遺跡、東裏遺跡、裏ノ山遺跡については報告済みである（信濃町教育委員会、2007）。

貫ノ木遺跡（97道路改良地点）は国道18号線から上信越自動車道信濃町インターへ向かう国道18号バイパス建設に関連しておこなわれた道路改良に伴って実施した。住宅地内の道路をバイパスへすりつけるため、約1m程度高さを下げる道路改良が必要となり、それに伴って事前の発掘調査を実施することになった。

2. 調査・整理の体制と期間

発掘調査は平成9年度に実施し、出土遺物の水洗、注記などの遺物整理を同年度におこなった。報告書作成については平成20年～平成21年度におこなった。調査体制及び調査期間は以下の通りである。



1. 星光山荘 A 遺跡（帝石バイオライン地点） 2. 貫ノ木遺跡（帝石バイオライン地点） 3. 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）-----バイオライン敷設ルート

図1 調査地の位置（信濃町役場平成15年12月作成 1/25,000地形図を使用）

A. 発掘調査

事務局 信濃町教育委員会 教育長 小林豊雄
総務教育課長 北村敦博
総務教育係長 北村恭一
総務教育係 中村由克（野尻湖ナウマンゾウ博物館学芸員）
総務教育係 渡辺哲也
総務教育係 池田昭博

【星光山荘 A 遺跡（帝石パイプライン地点）】

調査期間：平成9年4月11日～同年4月17日

調査面積：270m²

調査担当：中村由克

【貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）】

調査期間：平成9年4月18日～同年6月25日

調査面積：520m²

調査担当：中村由克

【貫ノ木遺跡（97道路改良地点）】

調査期間：平成9年6月26日～同年8月26日

調査面積：200m²

調査担当：中村由克

調査参加者：麻田紀子、池田か己子、石田和子、今井美枝子、大久保孝子、荻原敬蔵、落合春人、小日向キヨ子、片山トヨ、金子シズイ、金子房江、木下絢江、木下浩一、木村キミ子、小林栄子、小林正義、駒村幸男、佐藤清子、佐藤ユキ子、佐藤儀信、渡沢ユキ子、高野孝司、竹内長子、竹内ゆき子、万場弘美、東貢、深沢政雄、巻柄恵子、松岡さとみ、松木由美子、横山真理子

B. 整理作業

実施期間：平成9年12月6日～平成10年3月31日

担当者：中村由克

整理参加者（遺物整理）：池田か己子、今井美枝子、小日向キヨ子、佐藤ユミ子、長谷川悦子、万場弘美、松岡さとみ、横山真理子

C. 報告書作成

事務局 信濃町教育委員会 教育長 小林豊雄（平成20年10月8日まで）
静谷一男（平成20年10月9日から）
教育次長 静谷一男（平成20年10月8日まで）
山縣一郎（平成20年10月9日から）
生涯学習係長 丸山茂幸
生涯学習係 渡辺哲也

実施期間：平成20年4月1日～平成22年3月31日

担当者：渡辺哲也

整理参加者（報告書作成）：藤田桂子

D. 調査の経過（調査日誌抄）

【星光山荘 A 遺跡（帝石パイプライン地点）】

4月11日 重機による表土剥ぎ。

4月14日 発掘調査開始。

4月17日 調査終了。

【貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）】

4月18日 重機による表土剥ぎ。

4月21日 発掘調査開始。

5月8日 バイパス工事開始に伴いプレハブ移動。

5月12日 黒色帯まで掘り下げる。

5月27日 測量。

6月3日 測量。

6月23日 測量。

6月25日 測量。調査終了。

【貫ノ木遺跡（97道路改良地点）】

6月26日 重機による表土剥ぎ。

6月30日 水道本管の部分を残して発掘調査開始。

7月7日 水道本管の部分を振り下げる。

7月11日 測量。

7月15日 北駿の地層観察。

7月18日 測量。

7月30日 測量。新しい部分の重機による表土剥ぎ。

8月11日 測量。

8月20日 土坑の実測図を作成。

8月21日 測量。

8月26日 測量。調査終了。

3. 遺跡周辺の環境

A. 地理的環境

長野県上水内郡信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県妙高市と県境を接している。日本海に面した海岸平野の高田平野と、内陸盆地の長野盆地との間にあたり、西には北から妙高、黒姫、飯綱、東には斑尾の4つの火山がそびえている。これらの火山に挟まれた地域には、標高650～750mの起伏に富んだ高原状の台地が広がっている。西側の3つの火山では、南に位置する飯綱山が最も古く、12から13万年前には活動を終了している。黒姫山は古期の活動が16から11万年前で、新期の活動がおよそ6万年前に活発になり、3万年前頃には活動が衰えている。妙高山は新期の活動が10万年前頃にはじまり、約6000年前に中央火口丘が形成され、現在に至っている。これら3つの火山の活発な活動により、各火山体の東側一帯には火山灰層が広く厚く分布している。中部更新統の火山灰層は20～30m、上部更新統の火山灰層は10m程度である。東側の斑尾山は西側の火山よりも古く、およそ30万年前には活動を終えていると考えられている。この斑尾山の西麓に広がる緩やかな起伏の地形を、黒姫火山の崩壊によって生じた池尻川岩屑なだれ堆積物がせき止めたことにより、およそ7万年前に野尻湖の原形が誕生した。現在の野尻湖は面積が3.96km²で、水面の標高が4654mである。こうした東西の火山に挟まれて低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などが現在の人びとの居住域となっている。

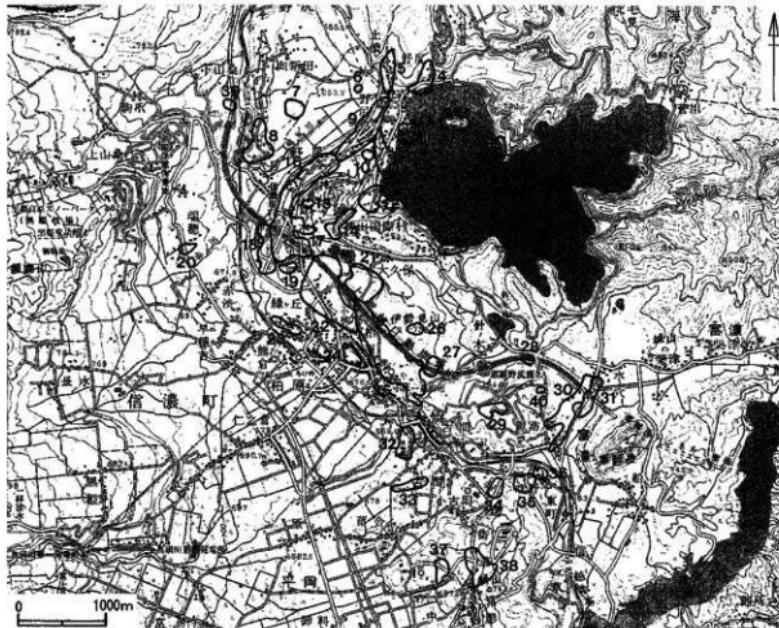
野尻湖の水は池尻川から西へ流れ出し、北へ向きを変えて閑川に合流し、日本海へ注ぐ。長野市戸隠を水源とする鳥居川は南西方向へ流れ、千曲川と合流し、信濃川となって日本海へ注ぐ。二つの水系の分水嶺は現在の上信越自動車道信濃町インターチェンジ付近と考えられるが、この辺りはなだらかな高原状の地形となっている。

現在人々が暮らす居住域は標高700m前後の地域で、日本海側の気候に属すため、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的涼涼であり、避暑地としても利用されている。

B. 歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあたるため、古くから人々の往来が盛んであった。野尻湖西岸の潮底に広がる立が鼻遺跡はおよそ4万年前の狩猟・解体場（キルサイト）と考えられており、ナウマンゾウとそれを追う旧石器人が往来したと考えられている。野尻湖周辺には旧石器時代～縄文時代草創期の遺跡が40ヶ所あり（図2）、その遺跡のまとまりは野尻湖遺跡群と称されている。構成する遺跡はそれぞれ面積が広く、遺物分布の密度も高い。そのため、野尻湖の西に連なる丘陵上はとぎれることなく遺跡がつながっているような印象を受けるほどである。近年、上信越自動車道建設や国道18号線の改築工事などにより、長野県埋蔵文化財センターや信濃町教育委員会によって多数の遺跡で、広範囲に渡って発掘調査がおこなわれ、膨大な数の遺物が得られた。それらの遺物をもとに近年、野尻湖遺跡群の編年が提示されている（谷、2007）。石器石材や石器製作技術は多様で、そうした石器の内容は、各方面から人々が流入してきたことをうかがわせる。

古代では東山道支道が通り、沼迎駅は野尻にあったと推定されている。また、江戸時代には北国街道が整備され、加賀金沢藩の参勤交代や、佐渡からの金銀の運搬など、重要な街道として利用されていた。現在も国道18号線、上信越自動車道、JR信越本線が通り、交通の要所であることに変わりはない。また、閑川がかつての信濃と越後の境ざかいとなっていたため、こうした歴史的な地理的条件を備えた地域でもある。中世の山城が多いことも、交通の要所として争奪戦がおこなわれた地であることを物語っている。



信濃町には現在までに173ヶ所の遺跡が知られている（信濃町教育委員会、2003）が、時代により遺跡数の変遷にその特徴が見出せる。①旧石器時代の遺跡が集中する。②縄文時代では草創期、早期の遺跡数が多く、前期以降の遺跡数は少なくなる。特に中期が少ない。③弥生時代、古墳時代の遺跡数は少なく、平安時代になると遺跡数が増加する。

4. 調査の方法

A. 発掘調査

ガスパイプラインの敷設場所は、そのほとんどが上信越自動車道に沿っていたため、上信越自動車道建設に伴って実施された県埋立センターによる発掘調査の結果を参考にし、遺物が多く出土した地点の周辺では特に注意を払って調査した。ガスパイプラインの敷設範囲は狭小なため、小型のバックホウを使って幅約2m、深さ10~20cmで表土剥ぎをおこなった。それより下位は移植ゴトと草かき鏟を使って手掘りをおこない、遺物が出土しなくなる地層まで掘り下げた。遺物の位置の測定は測量業者に委託し、光波トランシットによる単点測量をおこなって、位置及び標高のデータを記録した。その際には遺物番号とともに遺物の種別と出土層準のデータを記録した。また、発掘調査を実施した範囲の記録についても測量業者へ委託した。

B. 調査の位置とグリッドの設定

調査位置は測量業者による測量によって国家座標上に記録した。座標値は日本列島系による値である。貫ノ木遺跡ではさらに、県埋文センターによって設定されたグリッドに準じてグリッドの設定をおこなった(図3)。県埋文センターでは、上信越自動車道及び一般国道15号線建設に伴っておこなわれる発掘調査の範囲全体が収まるように、200m×200mの区画を設定しており、貫ノ木遺跡の周辺では北西から南東に向かってI～XIIまでの区画を設定している(長野県埋蔵文化財センター、1998)。これを大区画とし、その中に40m区画と呼んでいる。この太区画を基準とし、遺物は

5 基本概念

ここで扱う3遺跡の土層は、野尻湖発掘調査団(野尻湖地質グループ、1990)による野尻湖周辺の風成の層序で示された土層とほぼ同じことが確認できたので、その区分に従い、上の層からローマ数字を付け、次のように分層した(図4)。I層は表土、II層は柏原黒色火山灰層、III層はモヤで、IIIaが黒褐色、IIIbが暗褐色を呈する。IV層は上部野尻ローム層Ⅰ(以下、上部Ⅱと略す)で、わずかな色調の違いにより、IVa、IVb、IVcに分けた。V層は上部Ⅱ最下部で、暗褐色を呈する。この層には「ヌカⅠ」と呼ばれる火山灰が含まれるが、これは広城火山灰の姶良丹沢火山灰(AT)に対比されている(野尻湖火山灰グループ、1993)。VI層は黒色帶と呼ばれ、暗褐色土が帯状に分布する。VII層は上部野尻ローム層Ⅰ(以下、上部Ⅰと略す)、VIII層は中部野尻ローム層Ⅲ(以下、中部Ⅲと略す)で赤色スコリアの層である。IX層は中部野尻ローム層Ⅱ(以下、中部Ⅱと略す)、X層は中部野尻ローム層Ⅰ(以下、中部Ⅰと略す)で、いずれもスコリアが混入する。XI層は下部野尻ローム層Ⅲ(以下、下部Ⅲと略す)である。野尻湖周辺の層序と包含される遺物の関係は野尻湖人類考古グループ(1987)で示された通りで、概ねII層に纏文時代早期以降、III層に後期旧石器時代細石器文化と纏文時代草創期、IV層～VI層に後期旧石器時代の遺物が含まれている。星光山荘A遺跡ではII層とIII層から遺物が出土し、貫ノ木遺跡では両地点とともにII層からVI層で遺物が出土した。

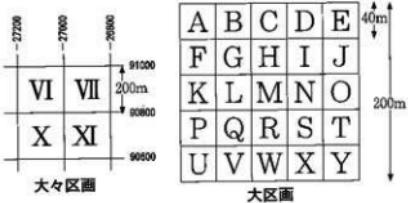


図3 グリッドの設定

I	表土
II	柏原黒色火山灰層 (黒褐色土 粘性なし)
IIIa	モヤ (黒褐色土 粘性あり)
IIIb	モヤ (暗褐色土 粘性あり)
IVa	上部 II 上部 (黄褐色七)
IVb	上部 II 中部 (黄褐色土 IVaよりやや暗い)
IVc	上部 II 下部 (黄褐色土 灰色かかる)
V	上部 II 最下部 (暗黄褐色土 粘性あり)
VI	黒色帶 (暗褐色土 粘性あり)
VII	上部 I (暗褐色土)
VIII	中部 III (赤色スコリア)
IX	中部 II (灰褐色土 スコリア混ざる)
X	中部 I (黄褐色土 ラビリ、スコリア混ざる)
XI	下部 III (黄灰色土)

圖 4 基本層序

II 星光山荘 A 遺跡（帝石パイプライン地点）

1. 調査の概要

星光山荘 A 遺跡は野尻湖から約 2 km 西の黒姫山麓に位置する。野尻湖の西岸から流れ出た池尻川は南西方向へ向かい、六月集落に至って方向を北へ変え、関川へ向かって流れるが、その池尻川が遺跡の約 50m 東に位

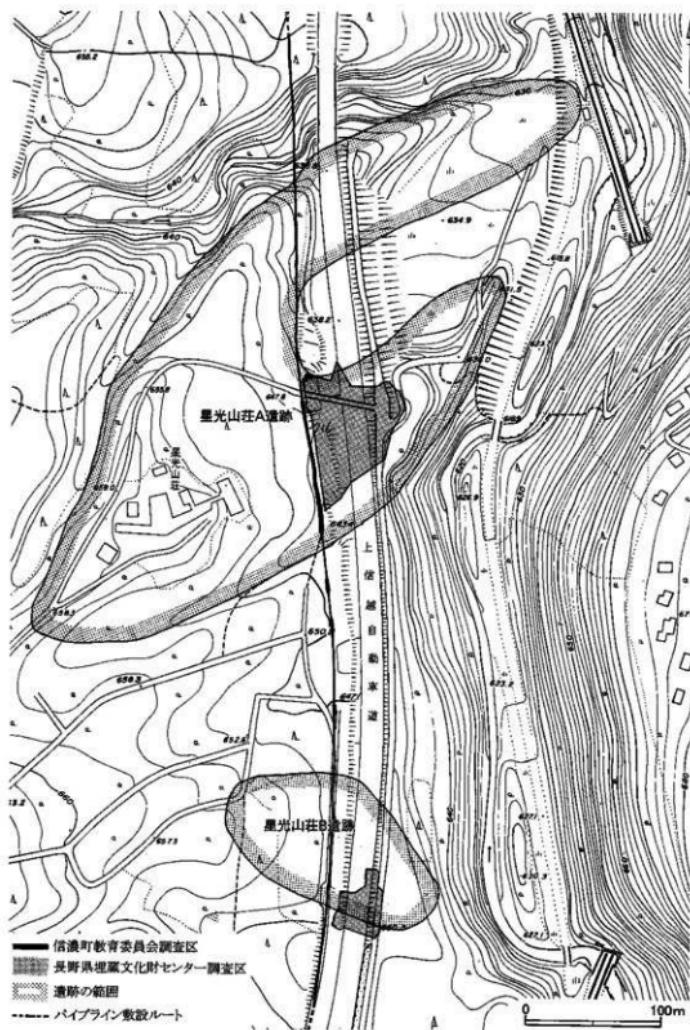


図 5 星光山荘 A 遺跡等の範囲と調査地の位置

置する。川と遺跡の比高は約50mである。西側から池尻川に向かって流れる小河川が池尻川に合流する辺りで、北東方向へ緩やかに下る傾斜地となっている。

遺跡は大阪星光学院が所有する研修施設の星光山荘を建設した際に、縄文時代早・前期の遺物が確認されたことから知られるところとなり、星光山荘遺跡とされた。その後、上信越自動車道建設に当たり、切り株伐採の作業中に縄文時代晚期の土器片が確認され、この位置が星光山荘遺跡よりも300m程南に離れていたことから、これを星光山荘B遺跡とした。そのため、星光山荘遺跡は星光山荘A遺跡と改称された（長野県埋蔵文化財センター、2000b）。

星光山荘A遺跡は上信越自動車道建設に先立ち、平成7年度に県埋文センターによって4000m²にわたって発掘調査がおこなわれた。数値としては多くないが、縄文時代早期～前期の遺物が得られ、階穴と思われる土坑が検出されている（長野県埋蔵文化財センター、2000b）。

今回の調査は前出の調査と区別するため、帝石バイオライン地点とした。バイオライン敷設という性格から、調査範囲は幅が狭く、距離が長くなっている。県埋文センターが調査した範囲に併行して設定したトレント1（以下、TR-1などと表す）は幅約2.5mで長さ約97mである。このほかに試掘用トレントを3ヶ所設定した。TR-1から南へ約33m離れて幅1.2m、長さ約9mのTR-2を設定し、さらに約22m南に幅1.2m、長さ約6.5mのTR-3を設定した。また、さらに南へ約48m離れて幅1.2m、長さ約7.5mのTR-4を設定した（図5、6）。発掘面積は約270m²である。いずれも浅いところでⅢb層、深いところでⅥ層まで発掘した。遺物はTR-1から出土した3点のみであった。

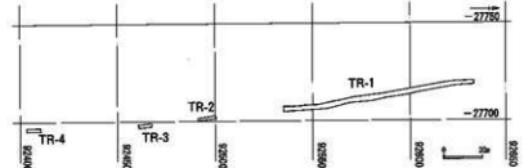


図6 星光山荘A遺跡（帝石バイオライン地点）のTR（トレント）の位置

2. 出土層準と遺物の分布

遺物はTR-1から遺物が3点出土した（図7）。遺構は検出できなかった。土師器2点はともにⅡ層から隣接して出土しており、同一個体と思われる。縄1点はⅢa層から単独で出土した。

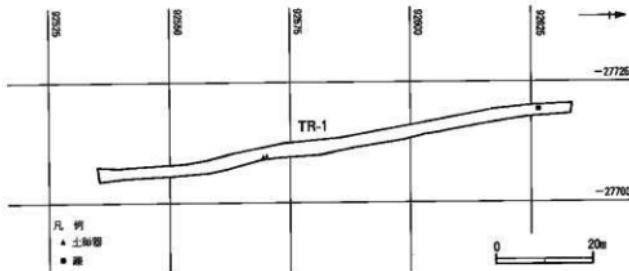


図7 星光山荘A遺跡（帝石バイオライン地点）のTR-1の遺物分布

3. 出土遺物

土師器2点はいずれも小片で、図化が困難であった。2点は同一個体の甕の破片と思われ、平安時代の所産と考えられるが、さらに時期を絞り込むことは困難である。

礫は安山岩製で長さ15.5cm、幅5.8cmの細長い形状をし、断面は扁平な三角形を呈する。用途等は不明である。

表1 星光山荘 A 遺跡（帝石バイブルайн地点） 土師器の観察表

トレ ンチ 番号	遺物 名	部位	出土 層準	標高 (m)	調整	含有物	色調		器壁 厚さ (mm)	X座標	Y座標
							外面	内面			
TR-1 2	土師器	胴部	II	648.740	内外クロナデ	ho qt 白 赤 レキ	燈	にぶい橙	5	92569.675	-27709.563
TR-1 3	土師器	胴部	II	648.779	内外クロナデ	ho qt 白 赤 レキ	燈	にぶい橙	5	92569.397	-27709.527

ho : 角閃石、qt : 石英、シロ : 白色岩片、アカ : 赤色岩片、レキ : 2mm 以上の小砾を表す

表2 星光山荘 A 遺跡（帝石バイブルайн地点） 磚の属性表

トレ ンチ 番号	遺物 番号	遺物名	出土 層準	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	X座標	Y座標
TR-1	1	磚	IIIa	648.218	15.5	5.8	2.2	206.0	92626.644	-27719.370

4. 小結

県埋文センターの調査では平安時代の遺物の出土はしておらず、今回の調査でこの地域にも平安時代の遺跡が分布していることが判明した。ただし、遺物の分布は散漫であり、遺跡の縁辺部と考えられる。なお、縄文時代の遺跡はこの地点までは広がっていなかったと言うことができる。

III 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）

1. 調査の概要

貫ノ木遺跡は野尻湖の西側約1kmの丘陵上に位置する（図2）。現在の国道18号線の「信濃町I.C入口」信号付近に貫ノ木の集落があり、そこから北東方向へのびる仲町丘陵上に広がる。標高が700~730mである貫ノ木には野尻ローム層の標準露頭があり、地質調査の際に遺物が採取され、遺跡が確認された（野尻湖発掘調査団、1975）。その後、A地点～C地点の3地点が設定された（野尻湖人類考古グループ、1990）が、その後の発掘調



A:帝石パイプライン地点(町) B:97道路改良地点(町) C:路上発掘(野) D:金氏住宅地点(町) E:2000個人住宅地点(町)
F:上信越自動車道(県) G:野尻ハイバス(県) H:初原無縫中継所
■ 遺跡の範囲 ----- パイプライン敷設ルート

図8 貫ノ木遺跡等の範囲と調査地の位置

査の成果などから A~C 地点の境界がなくなり、統合された 1 つの遺跡として、面積の広い遺跡が設定された（信濃町教育委員会, 2003）。また、北側に隣接する照月台遺跡との境界は設定されておらず、丘陵上で遺跡が連続している。

貫ノ木遺跡内ではこれまでにいくつかの地点で発掘調査が実施されてきた（図 8）。最初に実施されたのは1985 年である。野尻湖発掘調査は野尻湖底の発掘調査とは別に、野尻湖周辺の旧石器時代の遺跡の学術調査を、陸上発掘と称して実施していたが、1985年の第 4 回陸上発掘と、1988年の第 5 回陸上発掘を貫ノ木遺跡で実施している（野尻湖人類考古グループ, 1987, 1990）。この調査では旧石器時代の 6 つの文化層から遺物が出土したことが報告されている。1991年～1992年には信濃町教育委員会によって研修所建設に伴う事前調査が実施され、3 つの文化層が確認されている（渡辺・中村, 1992）が、報告書が刊行されていないため詳細は不明である。1993 年～1996年にかけて、上信越自動車道と信濃町インターチェンジ建設に伴う発掘調査、及び、インターチェンジに接続する国道18号線野尻バイパス建設に伴う発掘調査が貫ノ木遺跡と西岡 A 遺跡でおこなわれ。広大な面積が発掘されたことによって、膨大な数の旧石器時代の遺物が出土した（長野県埋蔵文化財センター, 1998, 2000 a）。この発掘の成果をもとに、貫ノ木遺跡では 5 つの石器文化が設定された。さらに、1999年には国道18号線野尻バイパスの改築工事に伴って、隣接する照月台遺跡とともに発掘調査がおこなわれ、AT 降伏前後の石器群が検出されている（長野県埋蔵文化財センター, 2004）。個人住宅建設に先立って1994年に発掘調査された金氏住宅地点では旧石器時代の 4 つの文化層が設定された（信濃町教育委員会, 1995）。

今回調査を実施した範囲については、過去に発掘された地点と区別するために帝石パイプライン地点とした。調査範囲は、北の方向から信濃町インターチェンジへ向かう国道18号線に沿って約41m、そこから南東方向へ折れ、上信越自動車道に添って約55m を、3.5m 前後の幅で L 字形に発掘した（図 9）。この間は多数の遺物が出土した。そこから南東方向へ約4.5m の間隔を空け、その先約45m にわたって、幅約 2 m を発掘した。この間は遺物の出土が少なかったことから、トレーニングの幅を拡幅することなく終了した。

この発掘範囲は氣埋文センターの大々区画の VI、VII、X、XI の区画にまたがっているが、出土した遺物のほとんどは VI 区から出土している。

調査面積は約520m²で、682点の遺物が出土した。遺物の内訳は、石器604点、礫76点、炭 1 点、土器師 1 点である。石器には縄文時代草創期の遺物がわずかに含まれているが、ほとんどが後期旧石器時代の所産と考えられる。

2. 出土層準と遺物の分布

調査地では 5 地点で土層を記録した（図10）。図 8 で 1 ~ 5 の地点の地形を見ると、1 から 5 にかけて標高が高くなる斜面になっており、1 と 5 を比較すると 5 m 程度の標高差がある。全体に各層準の地層が厚く、特に

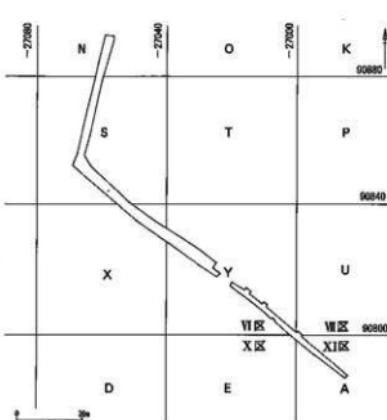


図9 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）の調査範囲とグリッド設定図

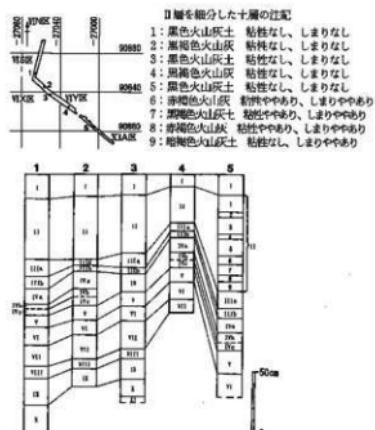


図10 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）の土層柱状図（土層は基本層序による）

II層が厚い。5の地点のII層は80cm程あり、色調や粒性、しまりの状況から9細分することができた。

調査地全体では調査範囲が直角に折れている辺りを中心に20m×30mの範囲に遺物が集中しているものと推定できる。発掘区の中で遺物の集中する地点がいくつか分けられるように見えるが、発掘区の幅が狭く、遺物が集中する範囲を捉えきれないことから、ブロックの認定はおこなわず、遺物の分布状況のみを示すことにした(図11)。

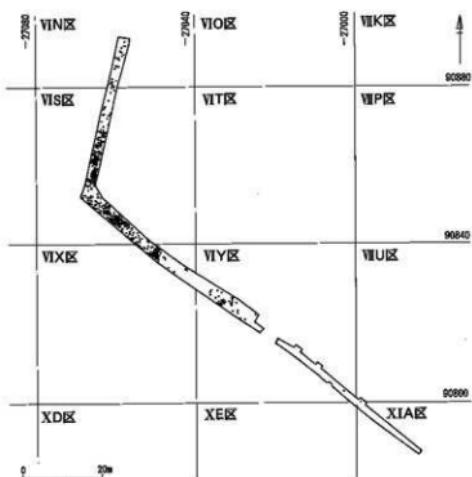


図11 貫ノ木遺跡(帝石パイプライン地点)の遺物分布(全体)

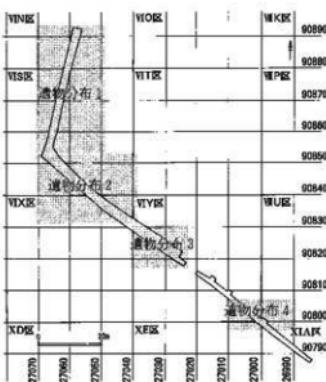


図12 貫ノ木遺跡(帝石パイプライン地点)の遺物分布範囲

3. 出土遺物のデータ分析

遺物は一辺40m四方のグリッドごとに通し番号を付けて取り上げをおこなっているが、出土した石器604点をグリッド別、層準別に集計した(表3)。大々区画VI区、大区画がS区(以下、VIS区などと表す)で460点、VI区で101点の遺物が出土し、この2区画で全体の90%以上を占めている。層準別ではV層で最も多数が出土し、全体の35.4%を占めている。V層の前後では、IVe層が17.7%、VI層が17.2%とほぼ同程度の割合となっている。この3つの層準の出土点数を合わせると70.3%となり、全体の約7割が出土していることになる。これよりも上層から遺物は出土するが、出土点数は少ない。よってV層に遺物出土数のピークがあり、そこから上下の層準へ移動した可能性が考えられる。接合資料が14点あり、接合した石器の出土層準を見ると(表6)、V層を中心にしてその前後の層準との接合が多く見られるが、V層とIVa層や、VI層とIIIb層との接合例もあり、垂直方向への遺物の拡散が確認できる。隣の出土層準を見ると(表4)、V層から32.9%、VI層から18.4%の割合で出土しており、この2つの層準で50%を超える。このような状況から、V層を中心として、その前後に遺物が集中することがわかる。よって、縄文時代草創期の遺物とした2点、後期旧石器時代細石器文化期の1点以外はV層周辺の1時期の石器群と考えておきたい。なお、V層はATを含む層準である。

出土した遺物の内、剥片石器596点について、石材別の点数と重量及びそれぞれの割合を示した(表5)。数量では無斑晶質安山岩(An)が最も多く、およそ8割を占めている。次いで黒曜石(Ob)、凝灰岩(Tu)の順となっている。重量別で見ると、1点当たりの重量が重い核が多く出土しているチャート(Ch)と凝灰岩の割合が高くなっている一方、1点当たりの重量が4.8gと小さな剥片類が多い黒曜石は5.2%と占める割合が小さくなっている。いずれにしても無斑晶質安山岩の割合が圧倒的に高く、ほかに黒曜石、チャート、凝灰岩が用いられているが、玉髓や黄岩などはほとんど用いられていない特徴をもつ。なお、それぞれの石材については、肉眼の観察により母岩別分類を試みた。石材によって色調や粒度などの特徴を縦軸と横軸にとってその位置を決めて分類した。色の記述は土色帖(小山・竹原、1967)に従っている(図18)。これらの母岩別分類の結果については、巻末の遺物一覧(表21~24)に示した。

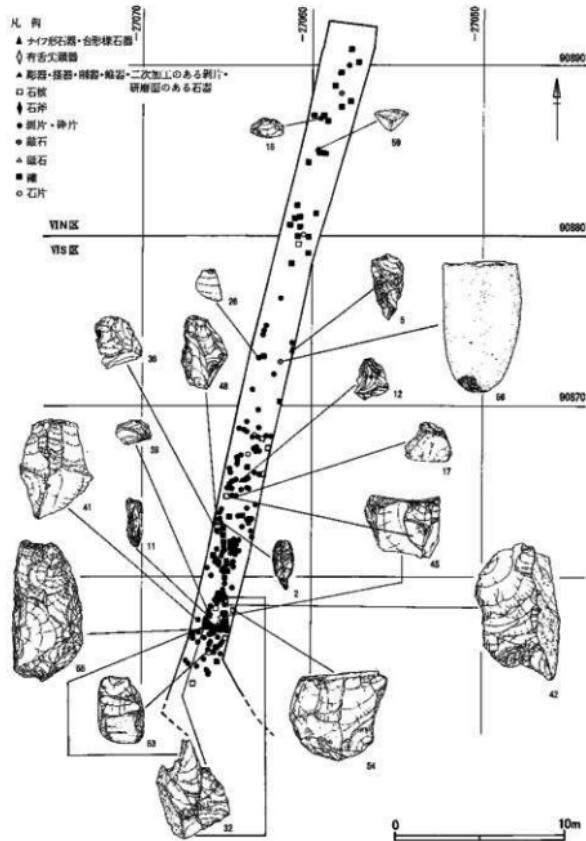
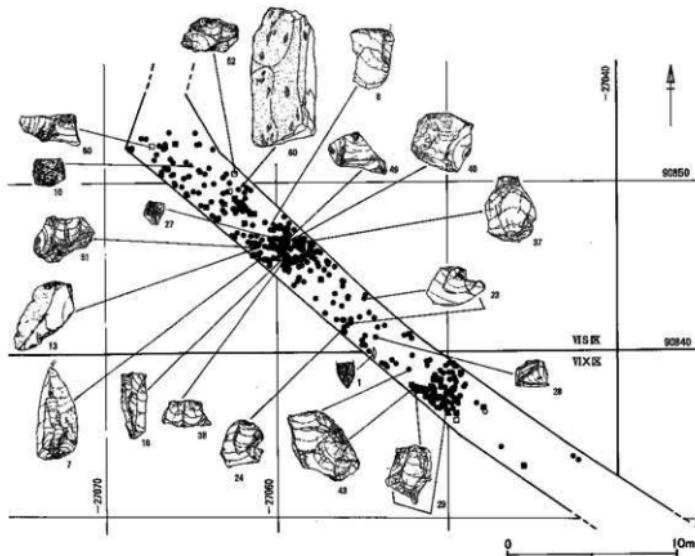


図13 貫ノ木遺跡(帝石バイブライン地点)の遺物分布1(凡例は図13~16に共通する)

4. 造構

礫が76点出土した。不明となった礫が1点あるため、75点について属性分類をおこなった。内容は割れの有無、割れ面の全体に占める割合、焼けの有無、その焼けの程度、これは肉眼観察で程度の弱いものを1、中程度を2、強いものを3と3段階に分類した。自然面の焼けの有無とその割合、平面形の形状で、幅に対して長さが2倍以上あるものを長、それ以下を短とし、また、単純に角張っているものを角、丸みをおびているものを丸とした(表25)。この分類の結果を全体で見ると、全体の93%が割れており、77%が焼けていて、これらの割合が高いことがわかる(表7)。焼けている礫のすべてに自然面の焼けが見られ、85%に割れ面の焼けが見られることから、これらの礫は調理などのために焼かれ、割れた後もさらに使用されたものと推測できる。

礫の分布を見ると、まとまりはあまり見られず、散漫な分布状況である。この内、比較的まとまりが良く、出土層準がそろっている4ヶ所の礫のまとまりを礫群とした(図19)。礫群1はV層に分布する礫群で、小型の礫で構成されている。礫群2と3はV層を中心には分布し、大小の礫で構成されている。礫群4はII層に分布しており、この礫群については旧石器時代のものではない可能性があるが、上器等との共伴関係が不明なため、所属時期を特定できなかった。



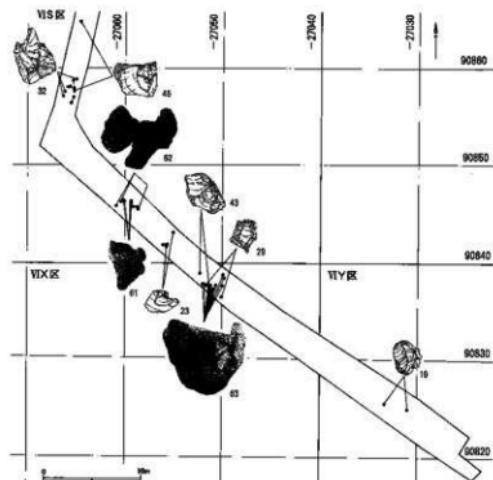


図17 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）の石器接合資料分布図

なわれていない。9は搔器で、素材の剥片の腹面側に刃部を設けている。10は剥片を素材とし、左側縁に沿って二次加工が施された器である。11と12は二次加工のある剥片で、いずれも素材の剥片の腹面に二次加工が施されている。13～17は微細剝離痕のある剥片で、打面側や末端部に微細な剝離痕が見られる。18は厚手の石刃である。19～43は剥片である。寸づまりの縦長剥片や幅広の剥片が多い。剥片に残る打面は自然面や単剝離面が多い。また、背面に自然面を残すものが多く見られる。接合資料からもこうした剥片の連続的な剝離がうかがえるが、得られた剥片は定形的ではない。44～54は石核及びその接合資料である。44は石刃石核で、石刃を連続して剝離した状況がうかがえるが、打面は折断面で、打面調整は見られず、剝離された石刃の大きさも描っていない。45と48は無選品安山岩製で、いずれも縦長剥片を剥

表3 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）石器のグリッド別、層準別出土点数

標準 グリッド	II層	IIIa層	IIIb層	IVa層	IVb層	IVc層	V層	VI層	VII層	合計	比率 (%)
VIN					2			3	1	6	1.0
VIS	18	13	14	54	50	86	151	73	1	460	76.2
VIX	4	1	1	8	3	16	56	12		101	16.7
VIY		2		3	2	5	7	16		35	5.8
XIA	2									2	0.3
合計	24	16	15	65	57	107	214	104	2	604	100.0
比率 (%)	4.0	2.6	2.5	10.8	9.4	17.7	35.4	17.2	0.4	100.0	

表4 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）礫のグリッド別、層準別出土点数

標準 グリッド	II層	IIIa層	IIIb層	IVa層	IVb層	IVc層	V層	VI層	VII層	合計	比率 (%)
VIN				1	1	1	2	4	8	17	22.4
VIS	5	2	3	3	2	4	17	6	3	45	59.2
VIX					1	4	2			7	9.2
VIY			1		2	2	2			7	9.2
合計	5	2	4	4	3	8	25	14	11	76	100.0
比率 (%)	6.6	2.6	5.3	5.3	3.9	10.5	32.9	18.4	14.5	100.0	

表5 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）剥片石器の石材別点数と重量

石材	An	Ob	Tu	Ch	Rh	GT	Ag	And	合計	
点数	465	78.0%	86	14.4%	17	2.9%	7	1.2%	6	1.0%
総重量 (g)	4,982.6	63.7%	410.5	5.2%	586.1	6.8%	1,583.4	20.2%	92.6	1.2%
1点の平均重量	10.7		4.8		31.5		226.2		15.4	

遺物不明 3点

点数	An 78.0%			Ob 14.4%		
重量	An 63.7%	Ob 5.2%	Tu 6.8%	Ch 20.2%		その他 4.1%

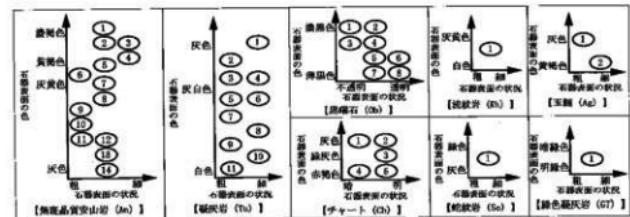


図18 貢ノ木遺跡(帝石バイブルайн地点)の母岩別分類の方法

石材名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
An 岩灰 無風化岩	褐色 (2.5YR 1/2)	褐色 (2.5YR 1/2)	灰 (3.5YR 1/2)	褐色 (3.5YR 1/2)	褐色 (3.5YR 1/2)	灰 (3.5YR 1/2)	褐色 (3.5YR 1/2)	褐色 (3.5YR 1/2)	灰 (3.5YR 1/2)					
Ts 灰 風化岩	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)	灰 (7.5YR 1/1)
Ob 黒 無風化岩	(NLS 1/1)	(NLS 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)	(2.5YR 1/1)
チャート Ch 無風化岩	灰 (N4 1/1)	灰 (N4 1/1)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)	灰 (2.5YR 1/2)
玉軸 Ag (2.5YR 1/1)	黄 (18YN 5/0)													
縄文 CT (7.5GY 1/1)														
風化岩 Hs (2.5YR 1/2)														
地表 Sg (18GY 1/1)														

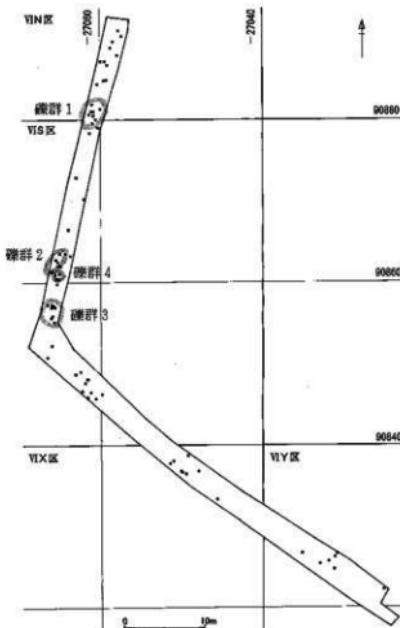


図19 貢ノ木遺跡(帝石バイブルайн地点)の
器の分布と縊群の位置

離している。49と50は黒曜石製、51と52は凝灰岩製であるが、これら4点は小形で幅広の剝片を削離している。53と54は自然面除去の初期段階で削離を終了した資料である。55は整形の途上と思われることから、石斧の未製品とした。56、57は敲石で、いずれも末端部に打撃痕が観察される。58、59は研磨された面をもつ剝片である。石器の石材には用いられない粗い安山岩が素材となり、各面が研磨されているが、類例が乏しく、用途等は不明である。60は研磨によると思われる擦痕による溝状のくぼみが観察されることから、砥石と思われる。遺跡内から磨製の石斧は出土していないが、石斧の刃部を磨いた砥石と考えておきたい。61～63は図示しなかつたが接合資料であり、剝片の削離や遺物の分布を考える上で重要な資料である。64も図示していないが、原石に近いチャートの石核である。

6. 旧石器時代の位置づけ

以上のような出土遺物の状況から、貢ノ木遺跡(帝石バイブルайн地点)の旧石器時代の様相についてその特徴をまとめるに、次のようになる。
 ①石器には縄文時代草創期、旧石器時代細石器文化のものがわずかに含まれるが、それ以外はナイフ形石器文化の1時期のものと考えられる。②石器はⅡ層からⅥ層まで出土しているが、Ⅴ層からの出土が最も多く、生活面はⅤ層にあったものと思われる。Ⅴ層はATを含む層である。③石器組成はナイフ形石器、台形様石器、彫器、搔器、削器、石斧である。ナイフ形石器には対向調整削離が見られる。石刀を含むが少量であり、定形化

表6 貫木遺跡(帝石バイブルайн地点)接合資料

図番号	19	23	29	32	43	45	61	62	63	図なし	図なし	図なし	図なし	図なし
母枠	Ob-3	Ob-8	An-11	An-7	Tu-2	An-3	An-5	An-8	An-11	An-8	An-8	An-8	An-13	An-13
IIIa														
IIIb				6S-27										
IVa	6S-224			6X-2	6S-180		6S-361					6S-385		
IVb			6S-67 6S-404				6X-34					6S-401		
IVc						6S-179					6S-368	6S-287		
V	6Y-36 6S-578	6S-529 6X-61	6S-407	6X-16	6S-191 6S-193 6S-205	6S-192	6S-308 6X-35 6X-47 6X-48 6X-49	6X-14 6X-18 6X-22 6X-36 6X-48 6X-49	6S-309 6S-320 6X-14 6X-18 6X-22 6X-36 6X-48 6X-49	6S-207	6S-400	6S-417		
VI	6Y-37				6S-75		6X-60		6S-65 6S-73				6S-416	

表7 貫木遺跡(帝石バイブルайн地点)跡の分析

跡全体の平均値														
長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	割合(%)	焼け度合(%)	焼け度合(%)	割れあり○ なし×	焼けあり○ なし×	口割れあり○ なし×	割れ面に焼け あり○なし×	平面形(長短)	平面形(角丸)		
7.1	5.1	3.4	590.1	93	77	2.1	○ 70 70	○ 68 77	○ 58 100	○ 66	長 短	角 丸		

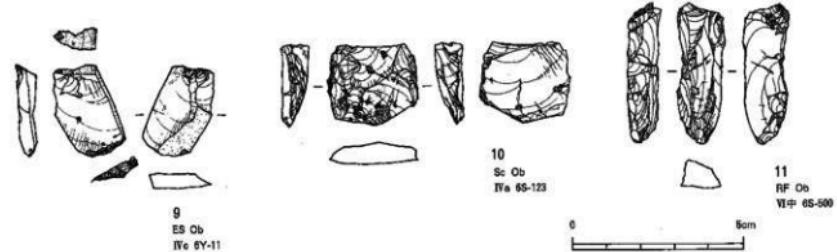
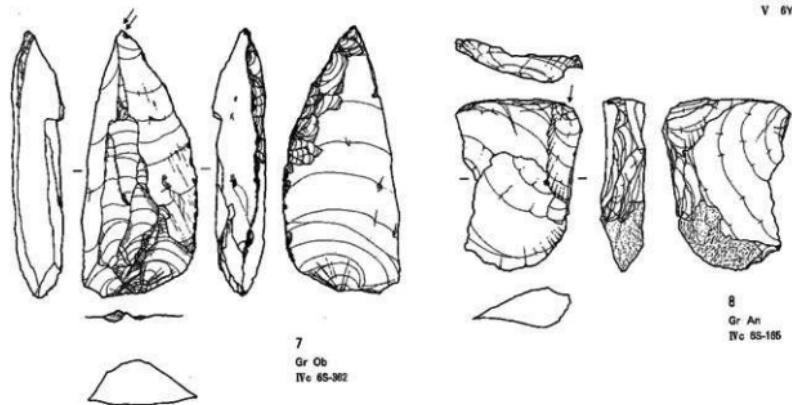
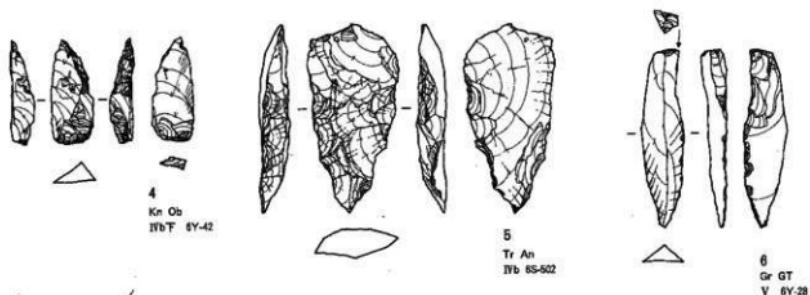
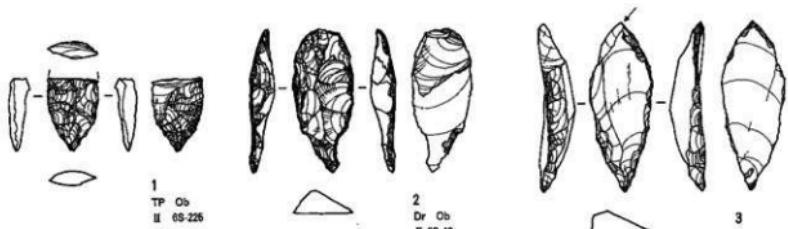


図20 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）の主な出土遺物1（有舌尖頭器、錐器、ナイフ形石器、彫器、搔器、削器、二次加工のある剥片）

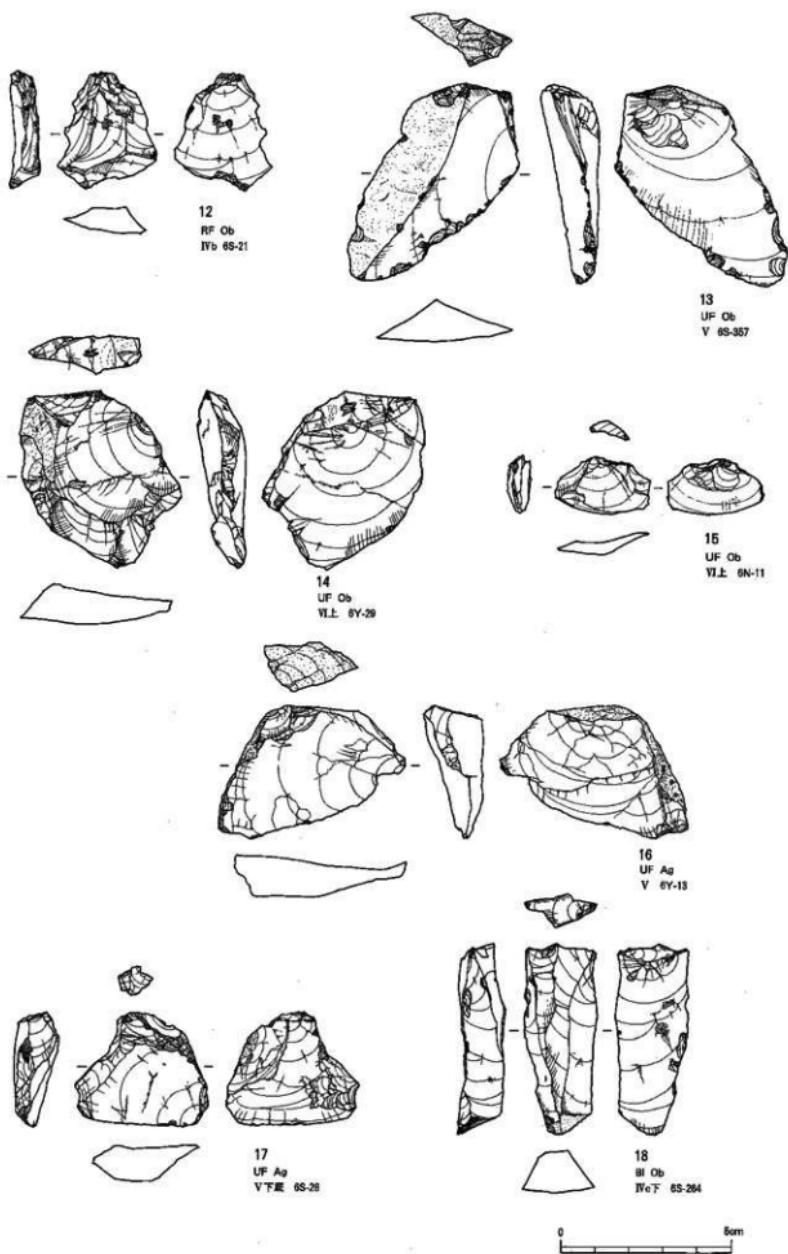


図21 貴ノ木遺跡（帝石バイオライン地点）の主な出土遺物2（二次加工のある剝片、
微細剝離痕のある剝片、石刃）

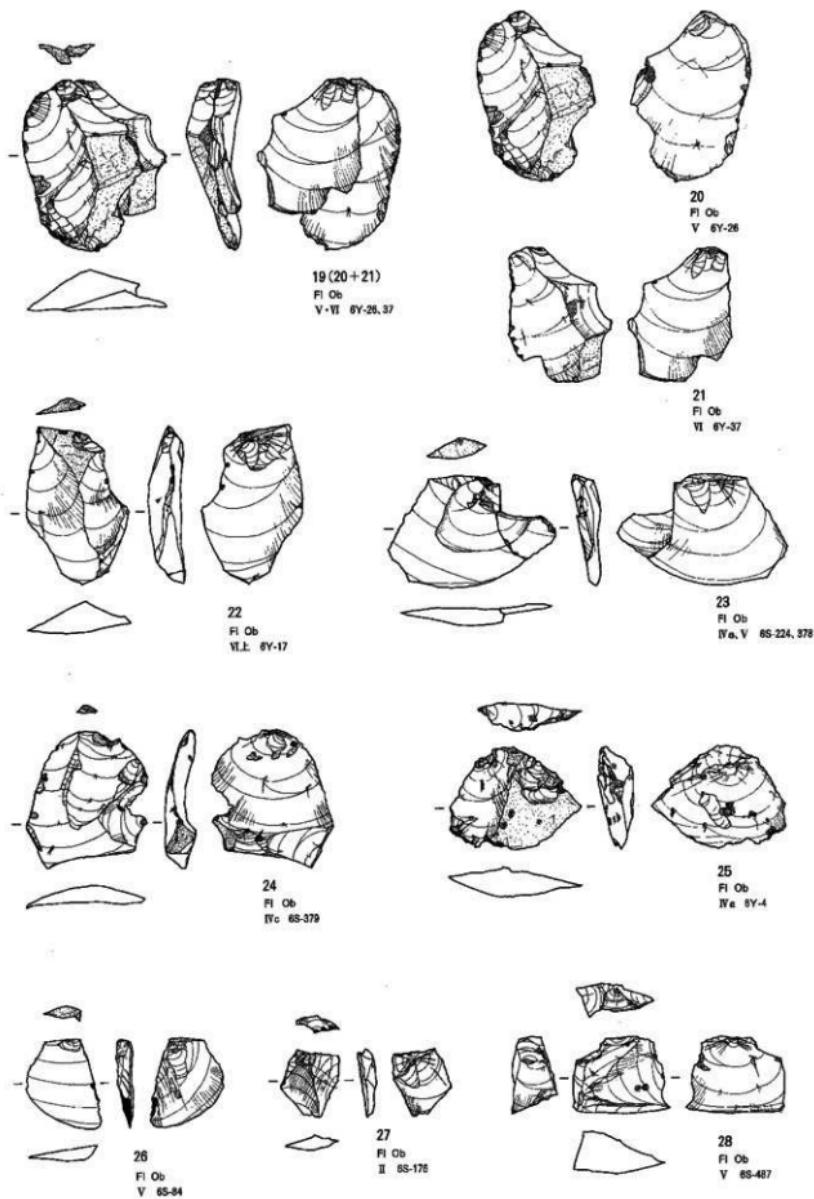


図22 貫ノ木遺跡(帝石バイブライン地点)の主な出土遺物3(剥片)

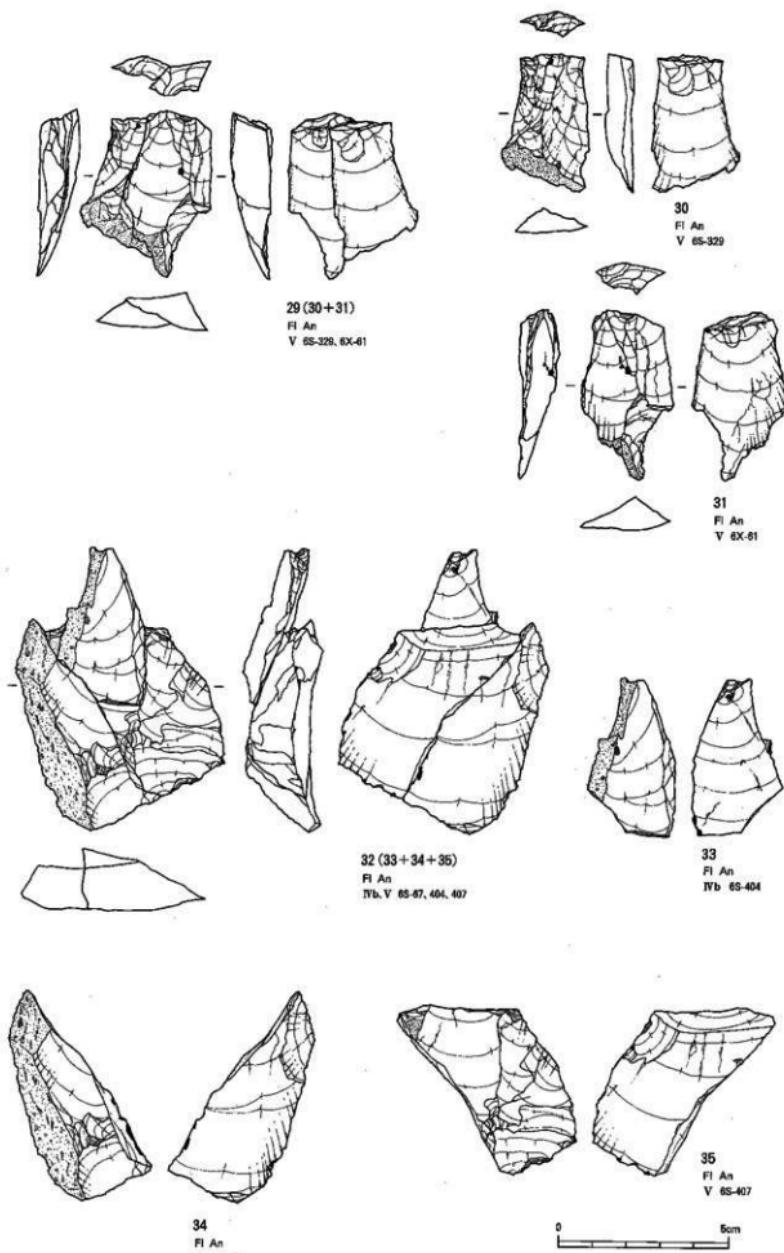


図23 貫ノ木遺跡（帝石バイブライン地点）の主な出土遺物4（網片）

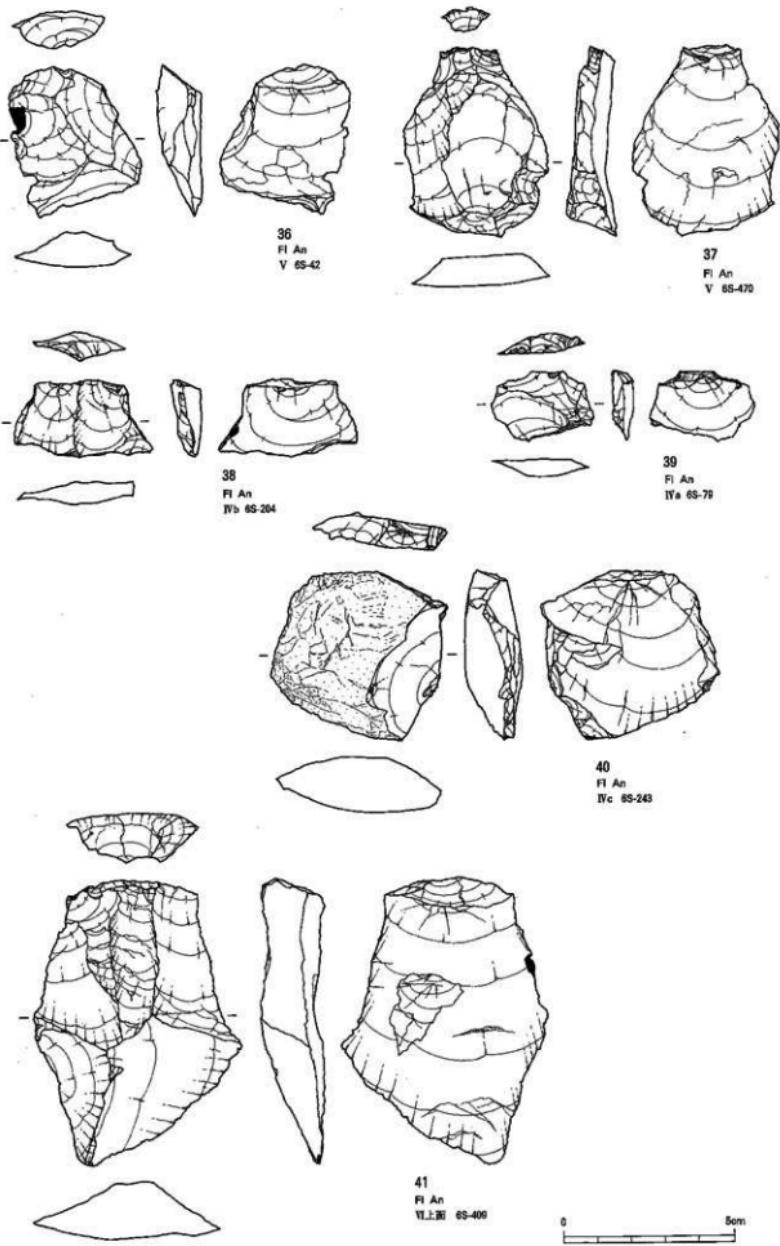
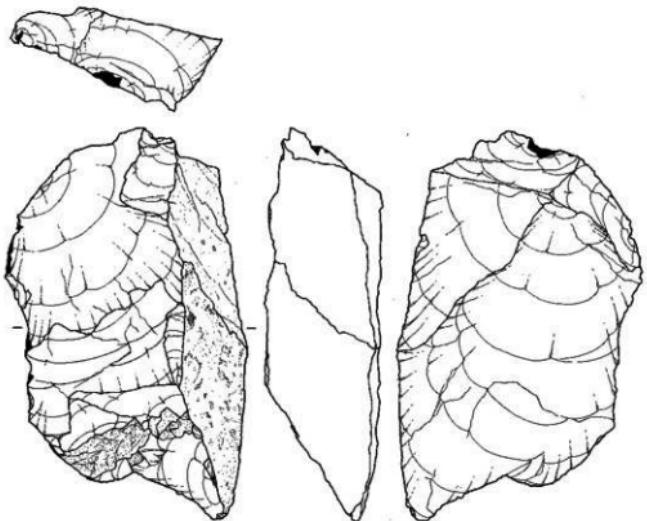
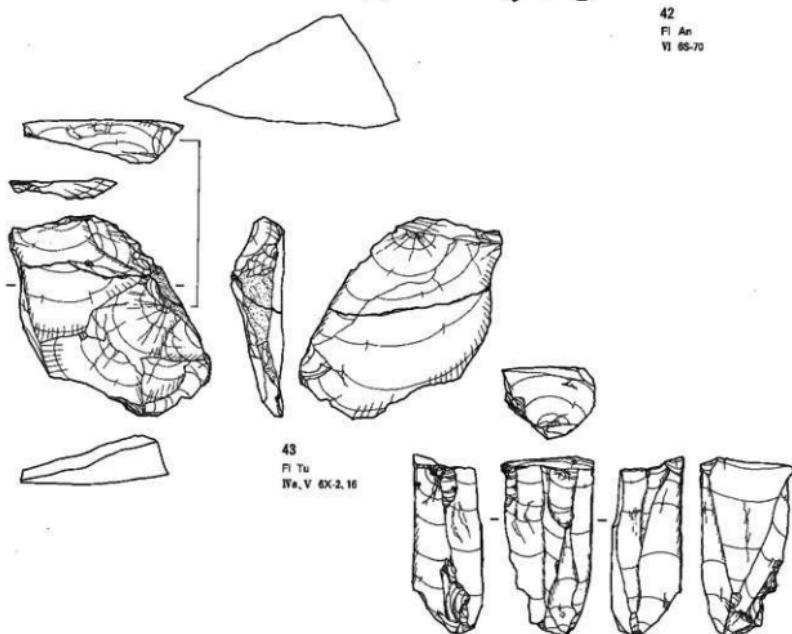


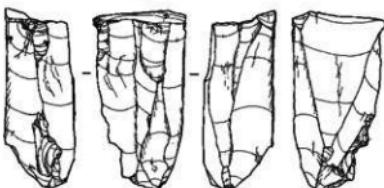
図24 貫ノ木遺跡（帝石バイブライン地点）の主な出土遺物5（剣片）



42
Fl An
VI 65-70



43
Fl Tu
IVe, V 6X-2, 16



44
BCo GT
VI 6Y-15



図25 貴ノ木遺跡（帝石バイブライン地点）の主な出土遺物 6（削片、石刃石核）

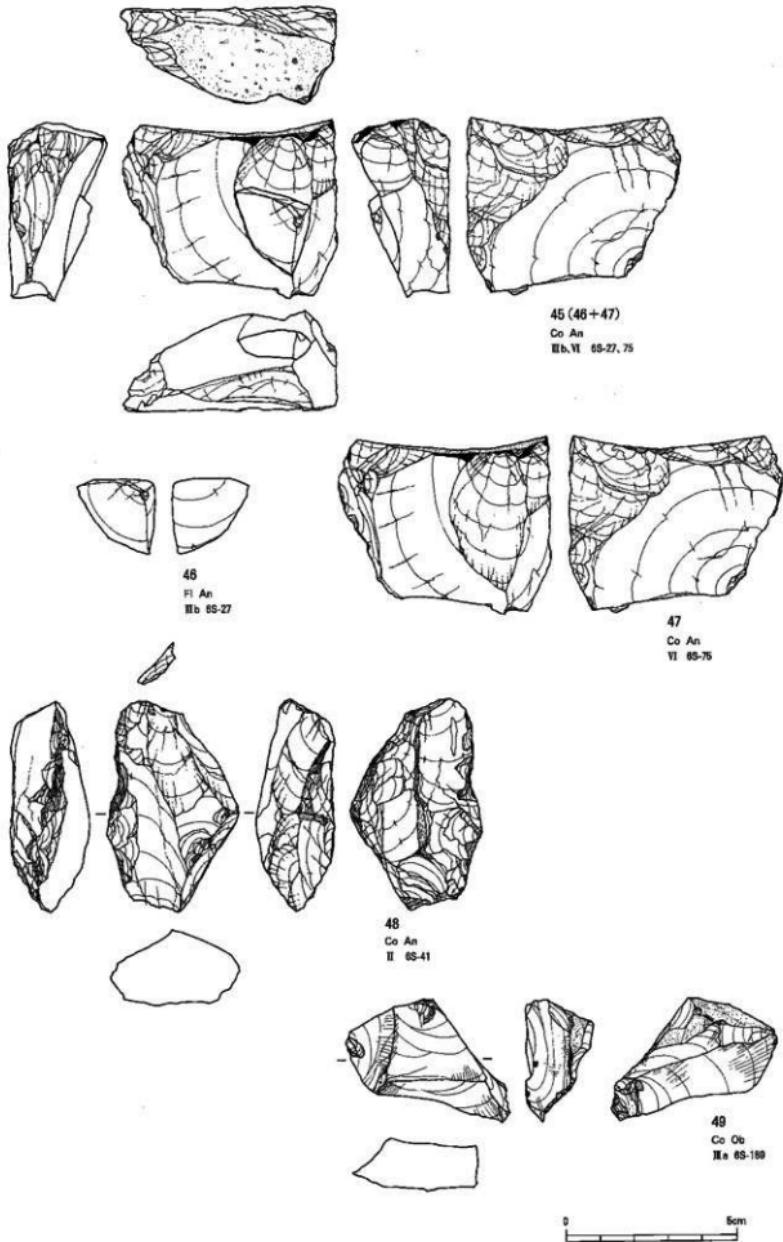


図26 貫ノ木遺跡（帝石バイブライン地点）の主な出土遺物？（石核）

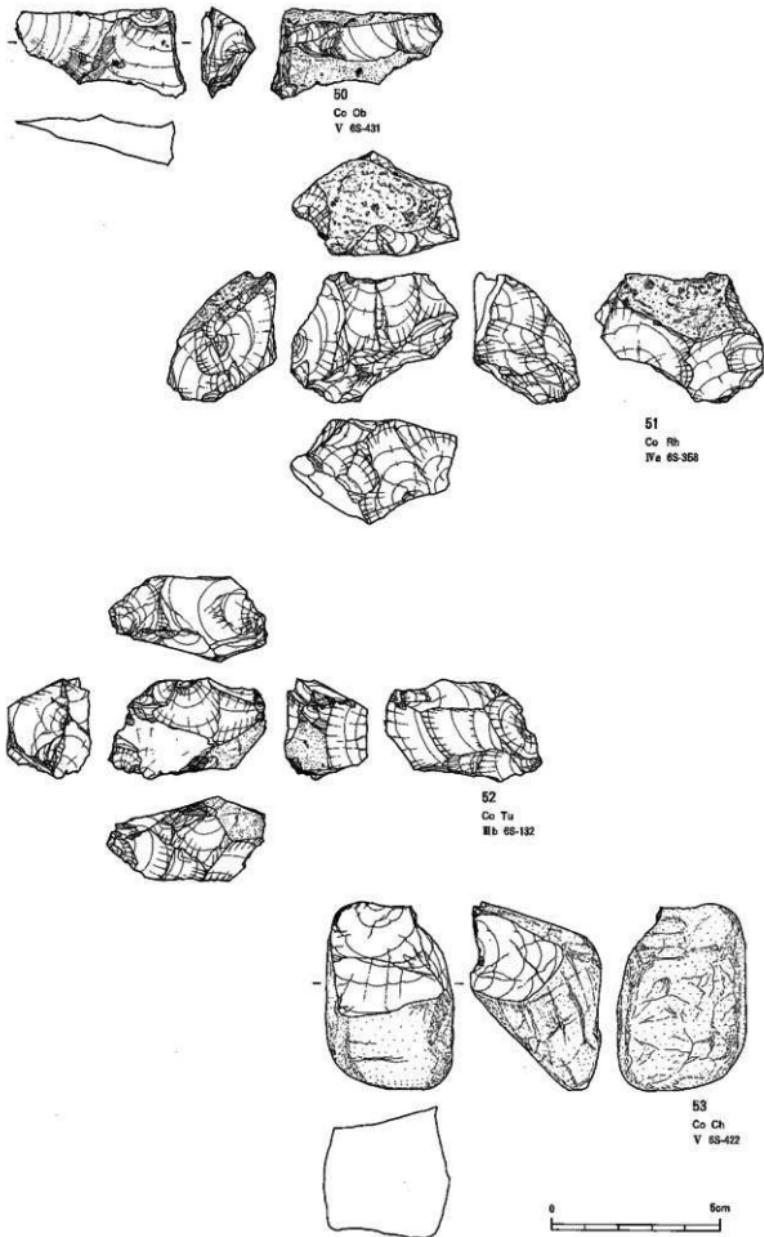


図27 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）の主な出土遺物 8（石核）

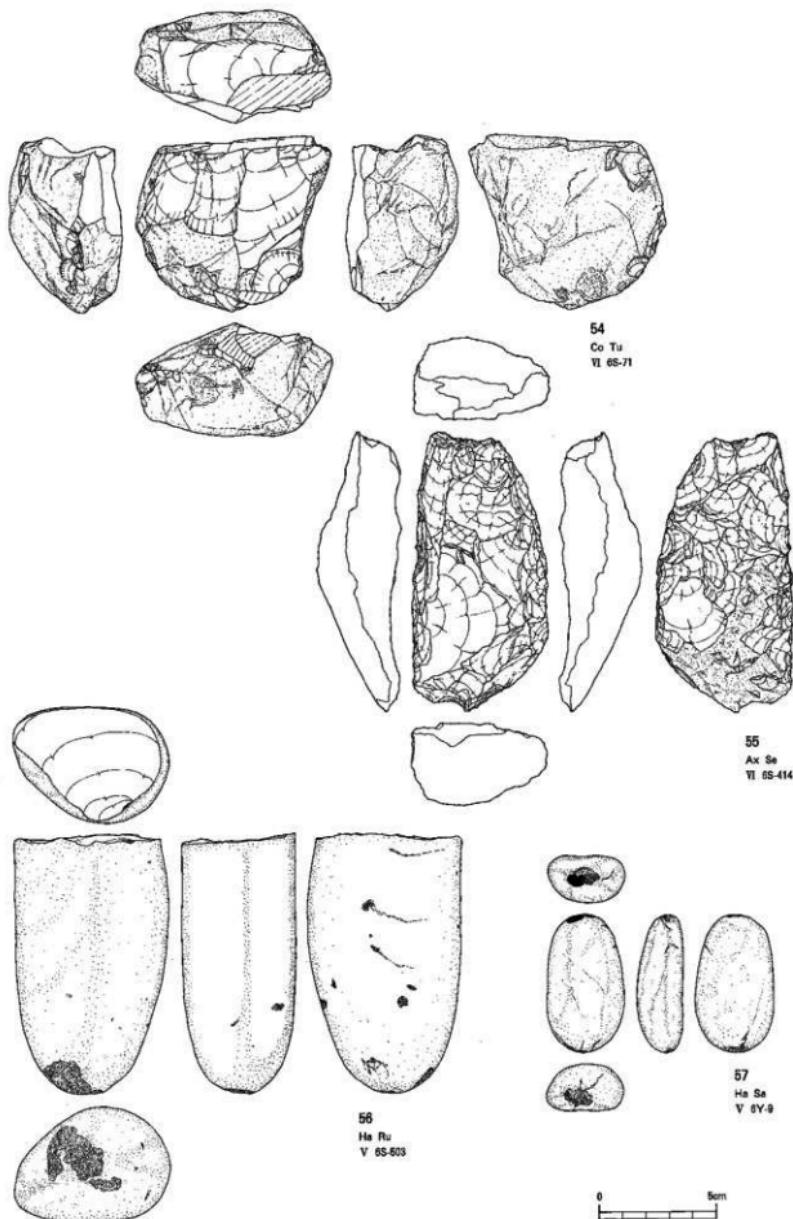


図28 黒ノ木遺跡（帝石パイブライン地点）の主な出土遺物9（石核、石斧、敲石）

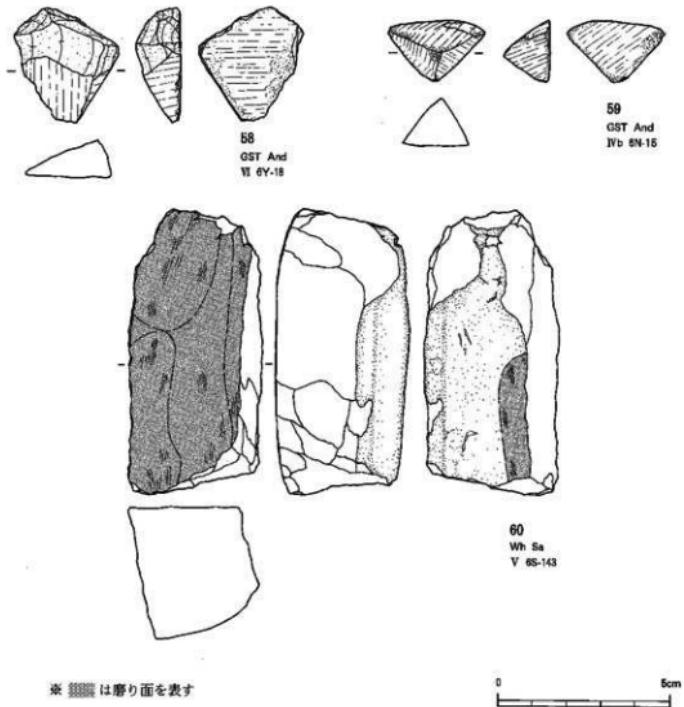


図29 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）の主な出土遺物10（研磨面のある石器、磁石）

表9 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）主な石器の観察表1

遺物番号	接合	遺物名	源種 略号	石材 略号	母岩	出土 層準	分布図	石器の特徴
1 6S 225		有舌尖頭器	TP	Ob	Ob-7	II	図14	有舌尖頭器の基礎。先端部を欠損する。
2 6S 40		鎌器	Dr	Ob	Ob-8	II	図15	骨質は尖頭部状の加工により断面三角形に整形される。周縁にはほど全局にわたって小刻面があり、二次加工が施されている。右側壁下半部に凹りがあり、先端を尖らせている。左側壁断面の下部に二次加工が施されている。
3 6Y 25		鎌器	Gr	Tu	Tu-1	IVb	図15	骨型鎌器。鍔長削片を素材とし、素材の打面削を基部に用い、刃部以外の周縁部に一次加工が施される。基部は尖る。左側壁下部に凹りがあり、腹面側の刃部の打面部には打面削痕の削離がある。
4 6Y 42		ナイフ形石器	Kn	Ob	Ob-7	IVb	図16	石刀状の継長削片を素材とし、右側壁上半部に70~90度の急角度の削離が施されている。対向削離削離。素材の打面は単側壁前打面で削離角は116度。
5 6S 502		台形石器	Tr	An	An-12	IVb	図13	素材の削片を横位に用い、背面の左側縁と腹面の右側縁に一次加工を施し、基部をみ出している。背面左側縁と右側縁の二次加工は65度前後であるが、左側縁前面は平坦削離となっている。
6 6Y 28		鎌器	Gr	GT	GT-1	V	図15	削片の縁辺に沿って刃面が作出された鎌器。刃面打面は素材の打面と同様。削離角は89度。右側縁の腹面に平垣二次加工がある。
7 6S 362		鎌器	Gr	Ob	Ob-5	IVc	図14	石刀状の削片を素材とし、素材の末端部から削離部に沿って回転状削離が施されている。削離角は52度。右側縁前面の上半部に急角度の一次加工が施されている。素材の打面、打点がある。
8 6S 165		鎌器	Gr	An	An-10	IVc	図14	削片の左側縁に沿って刃部を設けた鎌器。刃面打面は單側壁打面で、削離角は105度。素材の背面は自然面を残す。

表10 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）主な石器の観察表2

図 番号	遺物 番号	接合	遺物名	器種 略号	石材 略号	舟形	出土 層号	分布 図	石器の特徴
9	6Y 11		刮器	ES	Ob	Ob-5	IVc	図15	複反削片の謀面側の末端部に刃部を設けた器形。調整角は80~87度。素材は單斜輝石打面で削離角112度で、打点の加壓痕が顕著に残る縦長削片。
10	6S 123		刮器	Sc	Ob	Ob-5	IVa	図14	削片は素材とし、左側面に沿って二次加工が施されている。末端部は62~68度。末端の打面部は欠損する。
11	6S 500		二次加工のある削片	RF	Ob	Ob-5	VI	図13	厚手の横長の削片の表面に平坦削離による二次加工が施されている。
12	6S 21		二次加工のある削片	RF	Ob	Ob-5	IVb	図13	削片の謀面の末端に急角度の二次加工が施されている。調整角は75度程度。
13	6S 357		毫無削離痕のある 削片	UF	Ob	Ob-5	V	図14	縦長の削片で、打面は自然面打面。削離角は107度。削片は左側面に削離痕すらなく平面であるが底面あり。背面の一側面と底面の周縁部に微細な削離痕あり。
14	6Y 29		微細削離痕のある 削片	UF	Ob	Ob-1	VI	図15	すづまりの縦長削片で打面は單斜輝石打面で削離角は136度。背面の打面側に微細な削離痕あり。また、自然面あり。
15	6N 11		微細削離痕のある 削片	UF	Ob	Ob-8	VI	図13	短いの削片で、打面は自然面打面で、削離角は113度。打面部の背面と右側縁の腹面に微細削離痕あり。
16	6Y 13		微細削離痕のある 削片	UF	Ag	Ag-1	V	図15	幅広の削片。打面は單斜輝石打面で削離角は108度。左側面に自然面あり。打面側の背面に削離調整あり。末端部はフューザーフラックターとなり、末端部に微細な削離痕が見られる。
17	6S 28		毫無削離痕のある 削片	UF	Ag	Ag-2	V	図13	幅広の削片。打面は複斜面打面で削離角は107度。末端部にシング・フラクチャーとなり、末端部に弓こぼれ状の微細削離痕が見られる。
18	6S 264		石刃	Bl	Ob	Ob-5	IVc	図14	厚手の刃形で打面は単無面打面。削離角は117度。末端部に自然面が残る。背面側に微細な削離痕が見られる。
19	6Y 26	6Y-37	削片	Fl	Ob	Ob-3	V	図15	打面は自然面打面で、平坦な自然面を加壓して、縦長削片を退屈削離している。
20	6Y 26		削片	Fl	Ob	Ob-3	V	図15	打面は自然面打面で、削離角112度で削離された縦長削片。
21	6Y 37		削片	Fl	Ob	Ob-3	VI	図15	打面は自然面打面で、削離角114度で削離された縦長削片。背面に自然面を残す。
22	6Y 17		削片	Fl	Ob	Ob-7	VI	図15	縦長削片で、打面は平坦な自然面。削離角は114度。
23	6S 224	6S-378	削片	Fl	Ob	Ob-8	IVa	図14	幅広の削片で、薄い部分が削れ、それが接合したもの。打面は古い自然面の單斜輝石打面。削離角は104度。打点部にパンチ痕が発達する。全体に表面が風化す。
24	6S 379		削片	Fl	Ob	Ob-7	IVe	図14	すづまりの縦長削片で打面は複斜面打面。削離角は121度。底面はウーターラッセとなる。背面はオジティ面。
25	6Y 4		削片	Fl	Ob	Ob-5	IVa	図15	幅広の削片で、打面は古い單斜面打面。削離角は123度。背面に自然面あり。
26	6S 84		削片	Fl	Ob	Ob-6	V	図13	短いの削片でシング・フラクチャーとなる。
27	6S 176		削片	Fl	Ob	Ob-6	II	図14	すづまりの縦長削片で打面は單斜面打面。削離角は116度。底部調整あり。
28	6S 487		削片	Fl	Ob	Ob-5	V	図14	厚手の広面の削片。打面は複斜面打面で削離角は103度。削片2点の堆合資料。複数の剖面によて平均的な打面をつくり出し、打面を固定して、縦長削片を油圧機械で削離している。
29	6S 829	6X-61	削片	Fl	An	An-11	V	図14	縦長削片で打面は複斜面打面。削離角は116度。背面に自然面あり。
30	6S 829		削片	Fl	An	An-11	V	図14	縦長削片で打面は複斜面打面。削離角は116度。背面に自然面あり。
31	6X 61		削片	Fl	An	An-11	V	図14	縦長削片で打面は複斜面打面。削離角は114度。背面に自然面あり。
32	6S 67	6S-404 6S-407	削片	Fl	An	An-7	IVb	図13	削片2点の接合資料。34と35は同一の大形の削片として削離され、その後、分別されたと考えられる。34と35はともに底面に小形の削離痕があり、石核として使用されている。
33	6S 404		削片	Fl	An	An-7	IVb	図13	打面は複斜面打面で削離角113度で削離された縦長削片。背面に自然面が残る。
34	6S 67		削片	Fl	An	An-7	IVb	図13	板状の削片が分割された削片で、折断面をもつ。腹面に小形の幅広の削片の削離痕あり。
35	6S 407		削片	Fl	An	An-7	V	図13	板状の削片が分割された削片で、折断面をもつ。腹面に小形の幅広の削片の削離痕あり。
36	6S 42		削片	Fl	An	An-6	V	図13	すづまりの縦長削片で打面は單斜面打面。削離角は121度。末端部はヒンジ・フラクチャーとなる。
37	6S 470		削片	Fl	An	An-10	V	図14	幅広の削片で打面は複斜面打面で、削離角は123度。底部調整の削離痕あり。
38	6S 204		削片	Fl	An	An-7	IVb	図14	幅広の削片で打面は單斜面打面で、削離角は115度。末端部はヒンジ・フラクチャーとなる。
39	6S 79		削片	Fl	An	An-7	IVa	図13	背面に自然面のある削片。打面は單斜面打面で、削離角は123度。
40	6S 243		削片	Fl	An	An-10	IVc	図14	大形の縦長削片。打面は單斜面打面。削離角は119度。背面には大形の削片を複数削離した痕跡が残る。
41	6S 409		削片	Fl	An	An-13	VI	図13	

表11 貫ノ木遺跡（溶石パイプライン地点）主な石器の観察表3

図 番 号	遺 物 番 号	種 合	遺 物 名	蓄 理 場 所	石 材	母 岩	出 上 層 部	分 布 圖	石器の特徴
42	6S 70		剥片	Fl	An	An-12	VI	図13	厚手で大形の剥片。打面は複数面打面で、側離角は129度。背面に自然面あり。根割りの段階で生じた剥片と思われる。
43	6X 2	6X-16	剥片	Fl	Tu	Tu-2	IVa	図14	打面は單側離面打面。側離角は126度。側離軸と剥片の長軸がずれる。右側面に自然面があり、背面にはその自然面を打面として削る側離面がおこなわれている。
44	6Y 15		石刃石核	Bco	GT	GT-1	VI	国15	石刃を剥離した石核。打面は折断面で、剥片の側離角は103度。上下両方からの剥離面からなる。
45	6S 27	6S-75	石核	Co	An	An-3	IIIb VI	図13	石核と剥片の接合資料。打面は自然面。
46	6S 27		剥片	Fl	An	An-3	IIIb	図13	平坦な自然面を加壓して剝離された縦長剥片の下部解。打面を大椎面。
47	6S 75		石核	Co	An	An-3	VI	図13	板状の剥片を累積とした石核。石核の平坦な自然面を打面とし、縦長剥片を剝離している。剝離角は105度。
48	6S 41		石核	Co	An	An-4	II	図13	縦長剥片を剝離した石核。打面は折断面の狭い平面面。側離角は92度。作業面には下方両端からの剥離がある。側面には薄紙状態の小剥離面あり。
49	6S 189		石核	Co	Ob	Ob-5	IIIa	図14	厚手の縱長剥片を累積した石核とし、米材の底面で幅広の剥片を剥離をする。打面が90度移動して剥片剝離がおこなわれている。
50	6S 431		石核	Co	Ob	Ob-5	V	図14	幅広剥片を米材とし、米材の底面で幅広の剥片を剥離する。打面は平坦な斜面面。剥片の側離角は110度。
51	6S 358		石核	Co	Rh	Rh-1	IVa	図14	小形で幅広の剥片を剝離した石核で、正面の仰側面の剥離角は104度。打面は自然面。打面は斜面面で、剥離面を打面として、求心的な剥片剝離がおこなわれている。
52	6S 132		石核	Co	Tu	Tu-8	IIIb	図14	小形で幅広の剥片を剝離した石核。單側離面を打面とし、側離角107度で剥片剝離がおこなわれる。打面の180度の入替えや工作面も見られる。
53	6S 422		石核	Co	Ch	Ch-2	V	図13	2点の剥片を剝離した石核。自然面が多く残り、隕石は子どもの手で大きさの重ね疊である。剥片は自然面を打面とし、剝離角は14度。
54	6S 71		石核	Co	Tu	Tu-11	VI	図13	縦長剥片を複数剥離した石核。素材は拳大の円錐體で、側離面より单側離面を作り出し、側離角70度～87度で複数の剥離面がおこなわれる。これらの剥離面は自然面を優先する程度のもので、目的的な剥片を剥離する前に運搬されたものと推測できる。
55	6S 414		石斧未製品	Ax	Se	Se-1	VI	図13	斧の未製品で、研磨痕はない。腹面に自然面が残り、素面の側面面で側離面が複数ある。側離角は100度～110度で側離面を作り出している。左側面と右側面に比べて厚い。腹面の剥離は見られる。形状が不規則で、刃部の整ひも不十分なことから未製品とし。
56	6S 503		敲石	Ha	Ru		V	図13	大形で細長い凹面の長軸の末端部に打撲痕が観察される。他の方の不端部に欠損する。
57	6Y 9		敲石	Ha	Sa		V	図15	平坦な面をもつ円錐で上下端に打撲痕が観察される。
58	6Y 18		研磨面のある石器	GST	And		VI	図15	研磨された面をもつ剥片。石材は剥片石器には適さない気泡の多い安山岩。角柱状の形狀をもつ。4面すべてが入金で研磨されている。腹面と側面は単面研磨だが、ほかの3面は中央部がやや高めで研磨をもった面をなす。
59	6N 15		研磨面のある石器	GST	And		IVb	図13	研磨された面をもつ剥片。石材は剥片石器には適さない気泡の多い安山岩。角柱状の形狀をもつ。4面すべてが入金で研磨されている。腹面と側面は単面研磨だが、ほかの3面は中央部がやや高めで研磨をもった面をなす。
60	6S 143		砥石	Wh	Sa		V	図14	砾石の一部である。側面の腹面が削れ面のため、本来の大きさや、研磨面の広さは不明である。自然面が残ることから、内部を研磨していることがわかる。研磨面は側面で、広い面を裏面とすると、裏面には細かい横の線の側離面が残る。裏面は側面と比較して表面が荒く、裏面の中心部が研磨跡が目立つ。裏面は全体が赤化していて、被熱した可能性がある。
61	6S 180	6S-191 6S-192 6S-193 6S-235	石核	Co	An	An-8	IVa V	図17	自然面の表皮の剥離を示す接合資料で、自然面のある4点の剥片が石核に接合する。表皮の状況から原岩は重円錐と見られる。
62	6S 179	6S-208 6S-361	石核	Co	An	An-8	IVa IVc V	図17	自然面の表皮の剥離を示す接合資料で、自然面のある厚手で大形の剥片が点が接合する。原岩は重円錐と見られる。剥離された剥片は、石核として、小形で幅広の剥片剝離がおこなわれている。
63	6S 306	6S-320 6X-14, 15,17, 18,20, 27,34, 35,48, 50,63	石核	Co	An	An-14	IVb V VI	図17	重円錐の原岩から厚手の縦長剥片を剥離した状況を示す接合資料。表皮の自然面除去をせずに、打面を残して、半円状な單側離面を打面として、板敷の剥片を剥離している。剥片は大形で厚手のものが多い。
64	6S 74		石核	Co	Ch	Ch-1	V		重円錐の原岩から厚手の縦長剥片を剥離した状況を示す接合資料。表皮の自然面除去をせずに、打面を残して、板敷の剥片を剥離している。剥片は大形で厚手のものが多い。

図61～64は分布図と写真図版に掲載。実測図はなし。

IV 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）

1. 調査の概要

貫ノ木遺跡の特徴と過去の調査の経緯についてはIII-1で詳しく述べたので参照されたい。

今回の調査地は過去に発掘された地点と区別するために、97道路改良地点とした。上信越自動車道信濃町インターチェンジへ接続するためには道路改良が必要となり、現道を1m程度下げる工事が計画されたため、それに先立って実施された発掘調査である。金氏住宅地點（信濃町教育委員会、1995）と野尻バイパス関連の発掘地點（長野県埋蔵文化財センター、2004）に隣接する。道路の幅にあわせ2~5mの幅の細長い調査範囲を発掘し、調査面積はおよそ200m²となった。

出土遺物の総点数は630点で、内訳は旧石器時代の石器433点、縄文土器31点、縄文時代の石器2点、珠洲焼片1点、炭1点、木片1点である。縄文時代の石器が2点以外にも含まれている可能性はあるが、分離できなかったため、旧石器時代の石器として扱った。



図30 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の調査範囲とグリッド設定図

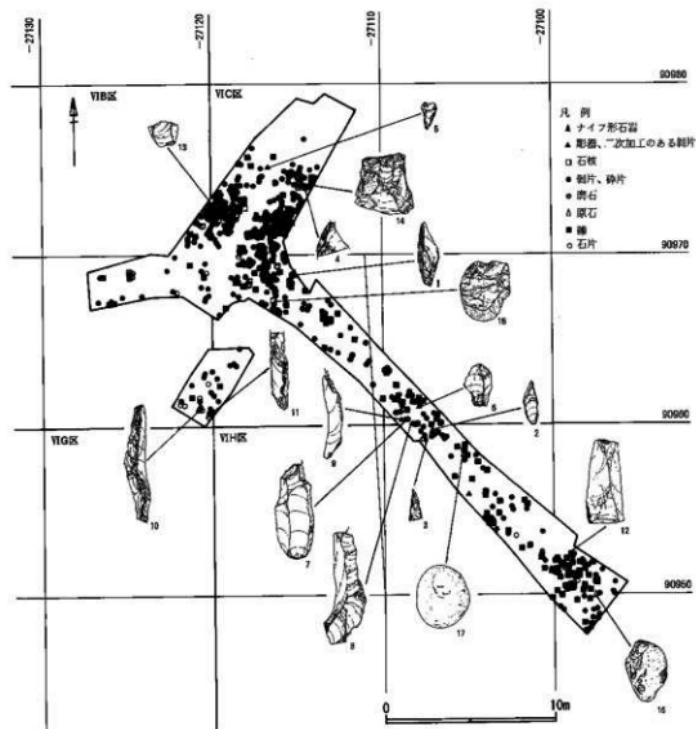


図31 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の遺物分布

2. 旧石器時代

A. 出土層準と遺物の分布

調査地は丘陵鞍部の平坦地付近で、北側へ緩やかに下る斜面であった。ここには、この地域の風成で見られる層序(図4)がひととおり描いていた。

調査区の中で遺物の集中する地点がいくつか分けられるように見えるが、発掘区の幅が狭く、遺物が集中する範囲を捉えきれないことから、ブロックの認定はおこなわず、遺物の分布状況のみを示すことにした(図31)。

B. 出土遺物のデータ分析

出土した石器433点を層準別に見ると(表12)、V層から最も多数が出土しているが、全体の2割程度であり、IVa層、IVb層、IVc層がそれぞれ16%台である状況と大きな差がない。VI層も15.5%と近い値を示しており、IVa層からVI層までの間に大きなピークがなく、同じような密度で遺物が出土していることがわかる。縫161点について見ると(表13)、VI層が48.5%と最も多く出土しており、次いでV層の15.5%となっている。IVa層からIVc層は5%以内と少ない。この縫の出土状況だけで判断すれば、VI層に生活面があったものと考えられる。

こうした石器及び縫が複数の層準から出土する状況は、時期差によるものか、生物擾乱などによる遺物の拡散によるものかを検討する必要があるが、遺物の特徴によって確実に分離できるものではないため、ほぼ同時期の遺物群と捉えておきたい。重量の重い縫が石器に比して移動量が少ないと考えれば、VI層及びV層周辺に生活面があったものと思われる。

出土した遺物の内、剥片石器426点について、石材別の点数と重量及びそれぞれの割合を示した(表14)。数量では無斑晶安山岩(An)が最も多く、およそ6割を占め、次いで黒曜石(Ob)が1割を占める。重量別で見ると、1点当たりの重量が重い石核が多く出土しているチャート(Ch)の割合が大きくなっている一方、1点当たりの重量が3.8gと小さな剥片類が多い黒曜石は5.8%と、その割合が数量に比べ小さくなっている。いずれにしても無斑晶安山岩の割合が大きく、ほかに黒曜石、チャート、流紋岩(Rh)、凝灰岩(Tu)などが用いられている。ほかに割合は小さいが、下呂石、珪質頁岩、緑色凝灰岩、玉髓が用いられ、多用な石材利用の状況がうかがえる。なお、それぞれの石材については、肉眼の観察により母岩別分類を試みた。石材によって色調や粒度などの特徴を縦軸と横軸にとってその位置を決めて分類した。色の記述は土色粘(小山・竹原、1967)に従っている(図32)。これらの母岩別分類の結果については、巻末の遺物一覧(表26~27)に示した。

表12 貫ノ木遺跡(97道路改良地点)石器のグリッド別、層準別出土点数

層準 グリッド	II層	IIIa層	IIIb層	IVa層	IVb層	IVc層	V層	VI層	合計	比率 (%)
VIB	3			14	5	5	14	12	53	12.3
VIC	14	6	14	48	65	62	72	43	324	74.8
VIH	7	3	7	11	2	4	10	12	56	12.9
合計	24	9	21	73	72	71	96	67	433	100.0
比率 (%)	5.5	2.1	4.8	16.9	16.6	16.4	22.2	15.5	100.0	

表13 貫ノ木遺跡(97道路改良地点)縫のグリッド別、層準別出土点数

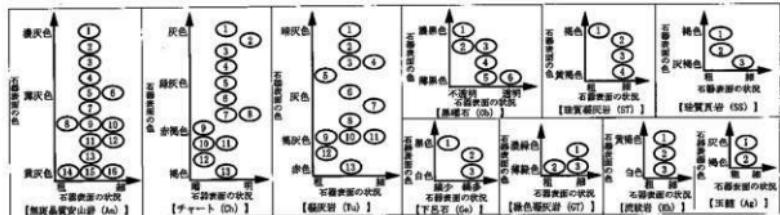
層準 グリッド	II層	IIIa層	IIIb層	IVa層	IVb層	IVc層	V層	VI層	カクラン	合計	比率 (%)
VIB	3		1			1	2		4	2	12.3
VIC	11	1		5	4	3	17	28	4		74.8
VIH	6		5	3	2	3	6	50			12.9
合計	20	1	6	8	6	7	25	78	8	2	161
比率 (%)	12.4	0.6	3.7	5.0	3.7	4.4	15.5	48.5	5.0	1.2	100.0

表14 貫ノ木遺跡(97道路改良地点)剥片石器の石材別点数と重量

石材	An	Ob	Ch	Rh	Tu	Ge	ST	SS	GT	Ag	And	合計
点数	253	59.4%	42	10.1%	28	6.6%	28	6.6%	24	5.6%	8	1.9%
重量(g)	1,622	257.3%	162.8	5.8%	337.9	11.9%	173.2	6.1%	154.5	5.5%	15.1	0.5%
1点の平均重量	6.4		3.8		12.1		6.2		6.4		1.9	

遺物不明 4点

点数	An 59.4%				Ob 10.1%	Ch 6.6%	Rh 6.6%	Tu 5.6%	その他 11.7%
重量	An 57.3%				Ob 5.8%	Ch 11.6%	Rh 6.1%	Tu 5.6%	その他 13.4%



石名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
泰山岩 An	褐色	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰
泰山岩 An	(N4V)															
チャート Ch	褐色	灰	褐色													
チャート Ch	(N4V/1)															
炭灰岩 Tu	褐色															
炭灰岩 Tu	(N4V/1)															
高尾石 Ob	褐色															
高尾石 Ob	(N4V/1)															
泥灰岩 PT	褐色															
泥灰岩 PT	(N4V/1)															
泥灰岩 PT	(N4V/1)															
下呂岩 Ge	褐色															
下呂岩 Ge	(N4V/1)															
高尾石 Ob	褐色															
高尾石 Ob	(N4V/1)															
高尾石 Ob	(N4V/1)															
正斜方辉石岩 Ag	褐色															
正斜方辉石岩 Ag	(N4V/1)															

図32 貫ノ木遺跡(97道路改良地点)の母岩別分類の方法

C. 遺構

礫は161点出土したが、不明となった5点を除いて156点について属性分析をおこなった(表28~29)。分析の項目は貫ノ木遺跡(帝石バイオライン地点)の4. 遺構の記述と同様であるので参照されたい。

分析の結果を全体で見ると(表15)、全体の94%が割れ、72%が焼けしており、これらの割合が高いことがわかる。焼けている礫のすべてに自然面の焼けが見られ、90%に割れ面の焼けが見られることや、短形で、角張っている礫が多いことから、これらの礫は調理などのために焼かれ、割れた後にもさらに使用されたものと推測できる。

礫は調査区全体に散漫に分布しているが、この内、比較的まとまりが良く、出土標準がそろっている4ヶ所の礫のまとまりを礫群とした(図33)。礫群1はIVb層から出土した4点の小形の焼け礫で構成される。礫群2はV~VI層から出土した大小13点の礫で構成された礫群で、大形の礫2点を中心とし、周囲に小形の礫が分布する。礫群3はVI層から出土

した18点の礫で構成されている。比較的大形の礫が多く、すべてに割れが見られ、ほとんどに焼けを示す赤化が見られる。礫群4は40点の礫から構成され、そのほとんどがVI層から出土している。比較的小形の礫が大半を占め、焼けていない礫が多く含まれている。

表15 貫ノ木遺跡(97道路改良地点)の礫の分析

礫全体の平均値	割れの有無						焼けの有無						自然面に焼けありなし						焼けありなし						平面形					
	割れ 数	割れ %	焼け 数	焼け %	割れの 割合(%)	焼けの 割合(%)	割れ 数	焼け 数	割れ %	焼け %	割れの 割合	焼けの 割合	割れ 数	焼け 数	割れ %	焼け %	割れの 割合	焼けの 割合	割れ 数	焼け 数	割れ %	焼け %	割れ 数	焼け 数	割れ %	焼け %				
長さ(cm) 幅(cm) 厚さ(cm)	6.6 5.0 3.2	367.7 367.7 367.7	94 72 1.9	72 1.9 1.9	1.9 1.9 1.9	1.9 1.9 1.9	10 6 6	44 28 0	10 6 0	10 6 0	10 6 0	10 6 0	10 10 10	96 90 39	96 90 39	36 51 33	36 51 33	140 140 140	140 140 140	10 10 10	10 10 10	10 10 10	10 10 10	10 10 10	10 10 10					



図33 貫ノ木遺跡(97道路改良地点)の礫の分布と礫群の位置

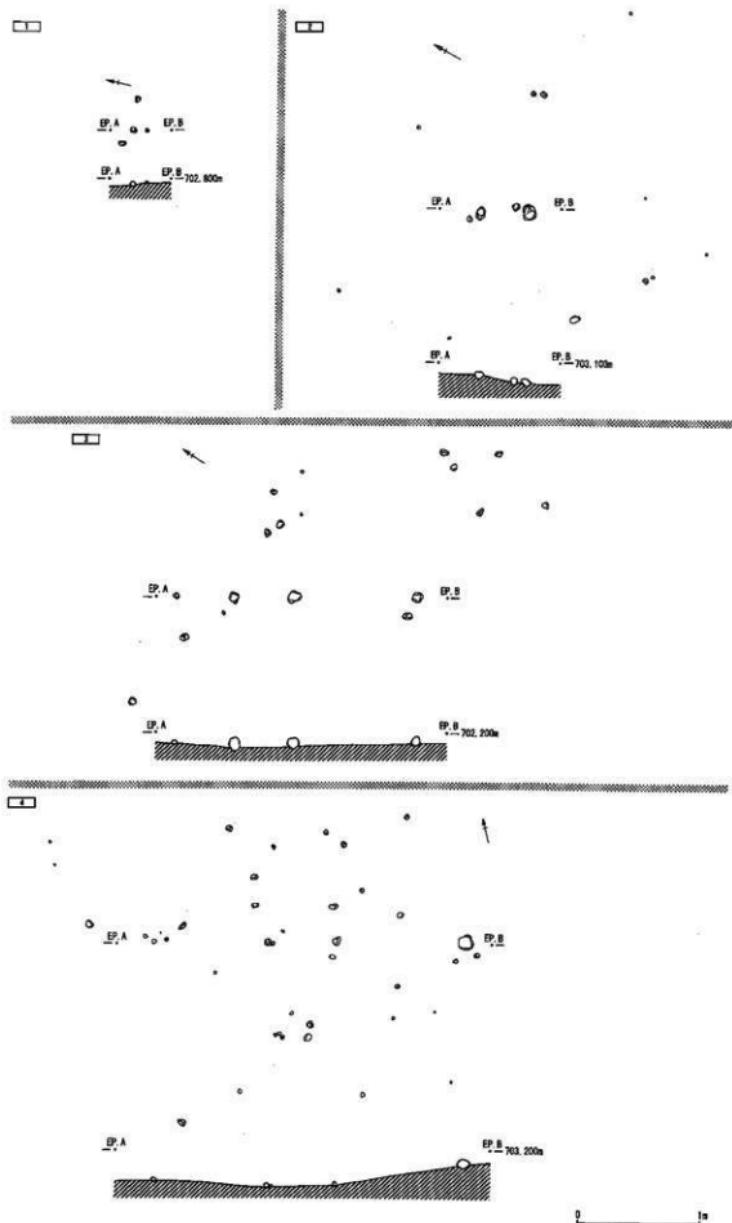


図34 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の縄群

表16 貨ノ木遺跡(97道路改良地点)各種群の特徴

種群	グリフ	遺物番号	枚数	出土する位置	標本の位置	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	割れ割合	割れ割合	焼け(3段階)	自然の焼け	自然の焼け	割れ割合	割れ割合	平面形(無孔)	平面形(丸)	接合
種群1	VIC	6 C 344	IVb	V	702.811	8.0	7.3	4.2	261.0	○	10	○	2	○	50	○	10	短角	角	
	VIC	6 C 345	IVb	V	702.785	8.7	5.9	3.4	185.0	○	49	○	2	○	50	○	36	長角	角	
	VIC	6 C 346	IVb	V	702.782	5.5	3.8	1.6	28.0	○	70	○	2	○	70	○	56	短角	角	
	VIC	6 C 347	IVb	V	702.771	6.8	6.7	3.6	166.0	○	49	○	1	○	26	○	16	短角	角	
	種群1の平均値					7.3	6.2	3.2	160.8	100%	40	100%	1.8	100%	48	100%	25	長25% 短75% 角100% 角10%		
種群2	VIC	6 C 206	V	V	703.009	3.2	1.4	1.3	7.9	○	40	×	-	-	-	-	-	保形	角	
	VIC	6 C 215	V	F	703.118	18.0	13.5	11.0	4400.0	○	1	○	30	保形	保形	保形	保形	保形	角	
	VIC	6 C 217	V	F	703.155	22.8	17.9	11.6	5600.0	○	20	○	1	○	50	○	80	保形	角	
	VIC	6 C 229	V	V	702.836	6.3	3.8	1.9	37.5	○	60	○	3	○	30	保形	保形	保形	角	
	VIC	6 C 221	V	V	702.856	7.8	3.5	2.7	78.0	○	60	○	2	○	70	○	70	保形	角	
	VIC	6 C 230	VII	V	702.898	4.1	3.8	2.5	43.0	○	20	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIC	6 C 303	VII	F	702.771	2.6	1.7	1.2	6.3	○	30	○	2	○	80	○	80	短角	角	
	VIC	6 C 309	V	F	702.877	7.5	3.3	3.0	67.8	○	70	○	3	○	70	○	70	保形	角	
	VIC	6 C 310	V	F	702.860	4.9	2.8	1.7	23.0	×	-	-	-	-	3	○	90	保形	角	
	VIC	6 C 311	VII	V	702.703	3.4	2.9	2.4	26.0	○	20	○	3	○	90	○	20	短角	丸角	
	VIC	6 C 313	VII	V	702.592	2.1	1.8	1.2	2.8	○	80	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIC	6 C 315	V	V	702.891	1.5	1.8	0.8	1.2	○	49	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIC	6 C 326	VII	V	702.921	5.2	1.9	1.6	13.6	○	70	○	3	○	80	○	80	短角	角	
	種群2の平均値					6.9	4.5	3.3	79.2	80%	46	69%	2.1	100%	65	78%	61	長25% 短38% 角92% 角8%		
種群3	VIC	6 C 365	V	V	702.255	8.7	9.3	8.2	1200.0	○	30	○	3	○	70	○	10	長角	角	
	VIC	6 C 378	V	F	702.140	5.0	4.3	3.3	72.5	○	50	○	3	○	40	○	50	短角	角	
	VIC	6 C 379	V	V	702.175	15.8	14.8	10.0	2200.0	○	30	○	3	○	90	○	90	長角	角	
	VIC	6 C 380	V	V	702.083	6.1	2.6	1.1	13.3	○	90	○	3	○	90	×	90	長角	角	
	VIC	6 C 381	VII	V	702.174	21.4	15.8	12.7	5000.0	○	30	○	3	○	50	○	70	短角	角	
	VIC	6 C 382	VII	F	702.169	27.7	20.5	11.4	7800.0	○	20	○	2	○	30	○	80	短角	角	
	VIC	6 C 383	VII	V	702.092	18.6	10.8	7.9	1200.0	○	40	○	2	○	40	○	40	短角	角	
	VIC	6 C 384	VII	F	702.074	12.9	9.7	6.7	800.0	○	20	○	2	○	50	○	50	短角	角	
	VIC	6 C 385	VII	V	702.068	10.3	6.7	6.7	400.0	○	70	○	3	○	90	○	80	短角	角	
	VIC	6 C 386	VII	F	702.148	14.5	9.4	5.2	864.0	○	40	○	3	○	80	○	80	短角	角	
	VIC	6 C 387	VII	V	702.180	14.3	12.2	7.3	2200.0	○	20	○	2	○	70	○	90	短角	角	
	VIC	6 C 388	VII	V	702.124	9.6	6.3	3.1	151.0	○	60	○	3	○	50	○	70	短角	角	
	VIC	6 C 389	VII	V	702.128	8.9	6.6	5.6	267.0	○	40	○	3	○	80	×	80	短角	角	
	VIC	6 C 390	VII	V	702.215	7.6	7.3	5.5	220.0	○	30	○	3	○	80	○	80	短角	角	
	VIC	6 C 395	VII	V	702.034	5.5	3.1	2.4	49.7	○	10	○	2	○	60	○	40	短角	角	
	VIC	6 C 396	VII	V	702.062	10.2	8.8	6.1	567.0	○	30	○	2	○	60	○	90	短角	角	
	VIC	6 C 398	VII	V	701.983	4.4	3.6	1.8	35.2	○	40	○	2	○	50	×	50	短角	角	
	VIH	6 H 116	VII	V	702.242	10.6	8.5	4.5	461.0	○	40	○	2	○	50	×	50	短角	角	
	種群3の平均値					11.7	9.1	6.1	1307.2	100%	38	94%	2.6	100%	68	71%	60	長50% 短50% 角94% 角6%		
種群4	VIH	6 H 10	V	V	703.154	5.5	3.2	1.8	22.9	○	80	○	2	○	20	○	10	短角	角	
	VIH	6 H 22	V	V	702.997	4.1	3.0	2.4	23.7	○	30	○	2	○	60	○	50	短角	角	
	VIH	6 H 85	V	F	702.897	2.7	1.1	0.9	3.8	○	30	○	1	○	20	○	10	長角	角	
	VIH	6 H 88	V	V	702.952	8.6	6.0	4.3	189.0	○	10	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 89	V	V	703.092	3.8	3.5	2.2	32.6	○	70	○	3	○	90	○	90	短角	角	
	VIH	6 H 90	V	V	703.006	4.0	2.8	1.7	18.3	○	40	○	4	○	50	○	50	短角	角	
	VIH	6 H 91	V	V	702.994	8.5	8.5	6.4	499.0	○	10	○	2	○	70	○	70	短角	角	
	VIH	6 H 92	V	V	702.945	7.9	6.4	3.8	199.0	○	70	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 93	V	V	702.981	5.5	3.3	1.9	36.8	○	20	×	-	-	-	-	-	長角	角	
	VIH	6 H 94	V	V	703.054	5.2	2.4	1.4	23.9	○	70	○	1	○	20	○	10	長角	角	
	VIH	6 H 96	V	V	703.092	5.5	4.2	3.0	66.9	○	40	○	1	○	50	○	50	短角	角	
	VIH	6 H 97	V	V	703.102	4.0	3.2	1.8	16.9	○	30	○	1	○	30	○	50	短角	角	
	VIH	6 H 98	V	V	703.305	9.8	2.9	2.0	25.1	○	70	○	1	○	10	○	10	短角	角	
	VIH	6 H 102	V	V	703.141	3.5	2.7	1.2	18.8	○	70	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 104	V	V	703.107	4.0	2.7	2.3	24.5	○	70	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 105	V	V	703.187	2.6	1.4	0.7	2.4	○	60	○	4	○	20	○	20	短角	角	
	VIH	6 H 106	V	V	703.154	16.0	14.3	7.9	2800.0	○	30	○	3	○	40	○	50	短角	角	
	VIH	6 H 107	V	V	703.128	4.2	4.0	3.2	55.6	○	20	○	1	○	10	○	10	短角	角	
	VIH	6 H 108	V	V	703.316	4.1	3.0	1.3	19.0	○	30	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 126	V	V	702.909	5.3	6.1	2.8	98.3	○	10	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 127	V	V	703.059	4.2	3.1	1.9	34.9	○	40	○	2	○	90	○	80	短角	角	
	VIH	6 H 130	V	V	702.924	4.8	3.5	2.9	62.3	○	40	○	1	○	10	○	10	短角	角	
	VIH	6 H 131	V	V	702.984	2.9	2.6	1.4	8.5	○	60	○	1	○	10	○	10	短角	角	
	VIH	6 H 132	V	V	702.946	4.0	2.8	2.9	39.9	○	20	○	1	○	10	×	10	短角	丸角	
	VIH	6 H 133	V	V	702.910	5.7	4.3	3.0	67.5	○	70	○	1	○	20	○	10	短角	角	
	VIH	6 H 134	V	V	702.993	6.6	8.8	3.2	107.7	○	70	○	2	○	70	○	39	長角	角	
	VIH	6 H 135	V	V	702.902	9.3	7.8	5.2	258.0	○	20	×	-	-	-	-	-	長角	角	
	VIH	6 H 137	V	V	702.950	4.4	3.7	1.7	18.4	○	20	○	2	○	50	○	39	短角	角	
	VIH	6 H 139	V	V	702.928	8.7	6.8	4.2	224.0	○	20	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 139	V	V	702.995	4.5	3.1	3.0	37.7	○	20	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 142	V	V	702.871	4.6	3.4	2.5	27.1	○	10	○	1	○	30	○	10	短角	角	
	VIH	6 H 143	V	V	702.891	5.0	3.3	2.6	44.3	○	20	○	1	○	20	○	20	短角	角	
	VIH	6 H 144	V	V	702.957	5.6	4.8	3.5	115.5	○	40	○	2	○	70	○	10	短角	角	
	VIH	6 H 145	V	V	702.953	5.7	4.1	3.7	73.8	○	80	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 146	V	V	703.007	4.6	3.1	3.2	45.7	○	30	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 147	V	V	702.911	3.7	3.0	2.7	30.7	○	20	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	VIH	6 H 148	V	V	703.014	10.4	6.8	4.8	326.0	○	40	○	1	○	10	○	10	長角	角	
	VIH	6 H 149	V	V	703.051	4.6	3.5	2.7	51.3	○	30	○	1	○	10	○	10	長角	角	
	VIH	6 H 150	V	V	703.028	3.9	3.6	3.6	56.9	○	40	○	1	○	10	○	10	短角	角	
	VIH	6 H 151	V	V	702.945	3.9	2.6	2.6	24.4	○	20	×	-	-	-	-	-	短角	角	
	種群4の平均値					5.4	4.1	2.9</												

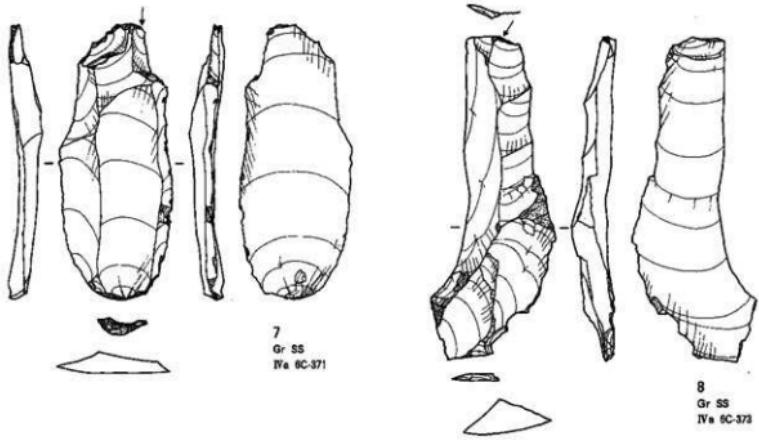
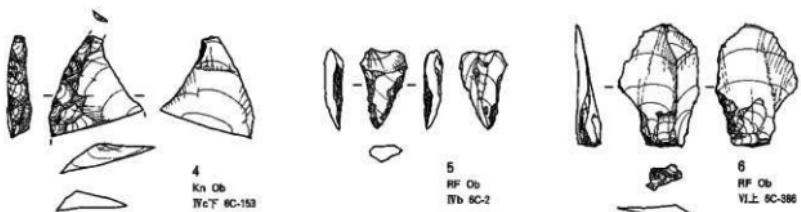
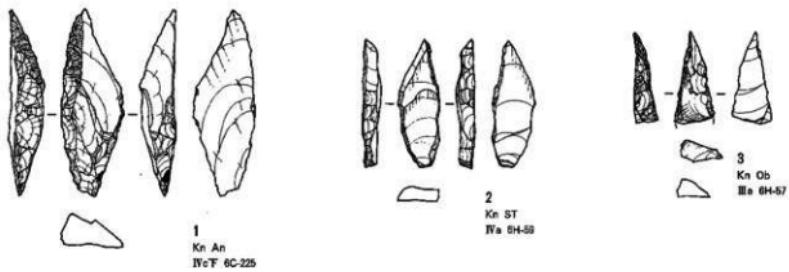


図35 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の主な出土遺物1（ナイフ形石器、二次加工のある剝片、形器）

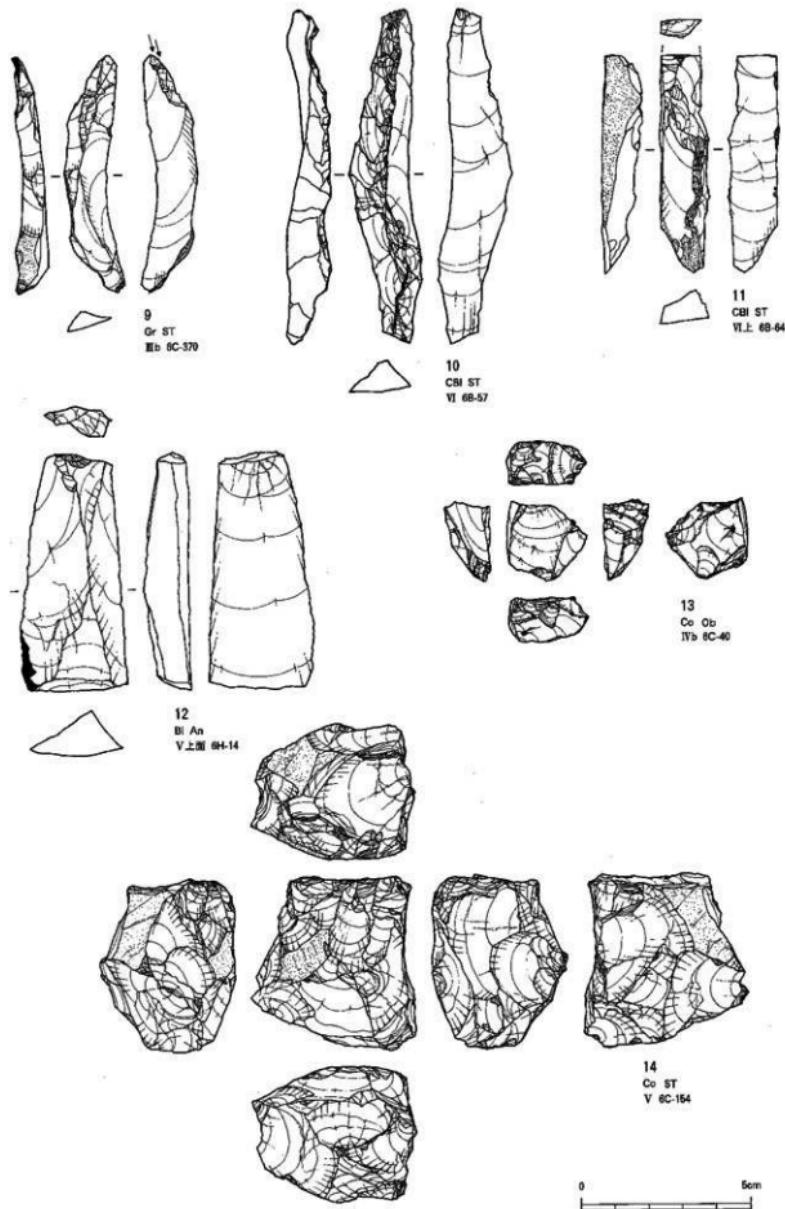


図36 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の主な出土遺物2（彫器、種付き石刃、石刃、石核）

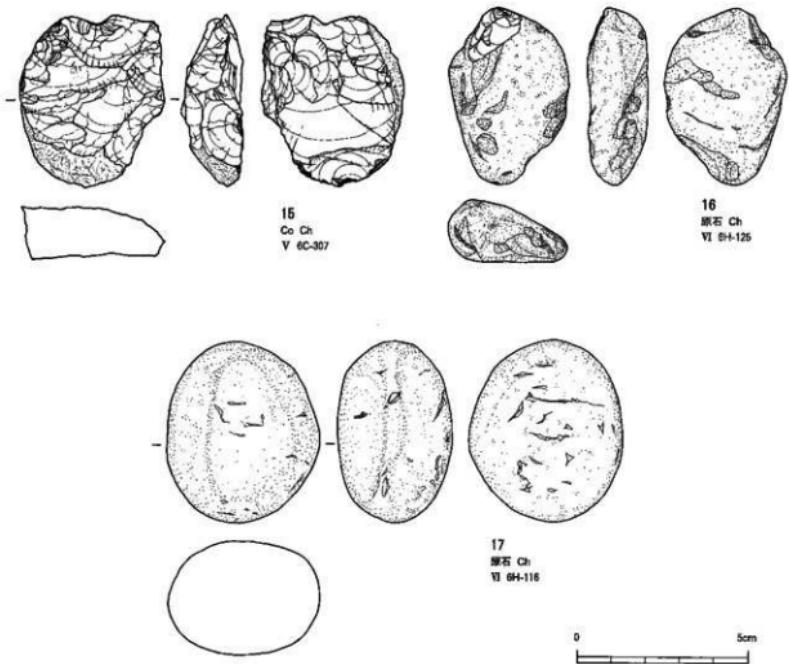


図37 貫ノ木遺跡(97道路改良地点)の主な出土遺物3(右核、原石)

D. 出土遺物(図35~37、表17)

1~4はナイフ形石器で、1と2は二側縁加工のナイフ形石器の完形品である。1は左側縁に急角度の二次加工が施されている。3はナイフ形石器の先端部と考えられ、二次加工は直角に近い急角度の調整で、対向調整剝離となっている。4はナイフ形石器の一部と思われ、一側縁に比較的角度の緩い二次加工が施されている。5、6は二次加工のある剝片で、いずれも合形様石器に類似する。5は両側縁に急角度の二次加工が施されている。6は右側縁の腹面側に急角度の二次加工が施されている。7~9は彫器で、いずれも石刃または石刃状の縦長剝片を素材とし、その側縁に彫刃面を設けている。10、11は稜付き石刃で、11は打面部を欠損する。12は石刃で、複剥離面打面から剝離されている。13~15は石核である。13、14は小形で幅広の剝片を剝離している。15は剝片を素材とする石核で、素材の背面と腹面の両面で、幅広の剝片を剝離している。16、17はチャートの原石で、卵形の大きさの原石が石器素材として遺跡に持ち込まれたことを示す資料である。

E. 旧石器時代の位置づけ

以上のような出土遺物の状況から、貫ノ木遺跡(97道路改良地点)の旧石器時代について特徴をまとめると、次のようになる。
①二側縁加工のナイフ形石器を特徴にもつ石器群で、やや時間的な幅をもつ可能性はあるが、ほぼ1時期の石器群と見ることができる。
②出土層準から見ると、石器はV層から最も多く出土しているが、IV層やVI層からも少なからず出土している。疊はVI層からの出土が最も多い。こうした状況から生活面はV~VI層を中心に複数あったものと思われるが、それを分類することはできなかった。
V層は広域火山灰のATが含まれる層準であり、石器群は概ねAT下位の石器群と見ることができる。
③石器組成はナイフ形石器、彫器、合形様石器に類似する二次加工のある剝片などである。ナイフ形石器は二側縁加工で、調整は直角に近い急角度であり、対向調整剝離を含んでいる。石斧は含まず、石刃、稜付き石刃を含む。
④石材は無斑晶質安山岩が多数を

表17 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）主な石器の観察表1

図 面 番 号	遺物番号	遺物名	面種 類号	石材 範号	母番	出上 層序	石器の特徴	
							側面 形状	側面 加工
1	6C 225	ナイフ形石器	Kn	An	An-12	IVc	側面加工のナイフ形石器。完形品。左側縁に急角度の二次加工が施され、刃端角は82°～87度。先端部に自然面を残す。右側縁の二次加工は72°～79度。先端角は55度。刃角は45度。	
2	6H 69	ナイフ形石器	Ka	ST	ST-1	IVa	二側縁加工のナイフ形石器。完形品。素材は縱長削片で、素材の打面が除去されている。基面側の加工は急角度の99度前後。刃角は約40度と厚い。先端角は55度。基面側はバブル状を除くような平坦削面がある。	
3	6H 67	ナイフ形石器	Kn	Ob	Ob-5	IIIa	ナイフ形石器の先端部。基面側は欠損し、折断面となる。素材の打面側を先端側とすると、二次加工は近い側縁で対向側縁削面が施されている。先端は近く尖り先端部の下に二次加工があり、側縁角は45°～50°。	
4	6C 153	ナイフ形石器	Kn	Ob	Ob-3	IVc	ナイフ形石器の一部と思われる。素材の剥片の打面部と末端部が欠損する。左側縁に二次加工が施され、側縁角は145°～60度。刃角は約80度。	
5	6C 2	二次加工のある剥片	RF	Ob	Ob-5	IVb	剥片を素材とし、素材の打面を横にし、側縁とする。素材の腹面側の側縁に二次加工が施される。側縁角は90度前後。	
6	6C 386	二次加工のある剥片	RF	Ob	Ob-4	VI	素材は複側縁削面打面を加筆して得られた複側縁剥片。素材の打面部は二次加工により除去されている。素材の打面が基面とし、複側縁面に二次加工が施されている。側縁角は90°～87度。左側縁下半部は折断により抉り状を呈する。	
7	6C 371	刀器	Gr	SS	SS-1	IVa	石刃を素材とし、その末端の側縁に沿って磨刀面を設けた影響。素材は複側縁削面打面から側縁角105度で削離された石刃。右側縁に類似の側縁削面が見られる。	
8	6C 373	刀器	Gr	SS	SS-1	IVa	大形の縱長削片を素材とする。素材の打面部は残らず、折断面となっている。その折断面の背面側に二次加工を施し、そこを加筆して刀刃面をつくり出している。	
9	6C 370	刀器	Gr	ST	ST-3	IIIb	石刃状の縱長削片に縦斜削片を施した形態。素材の末端側に自然面があり、端部には「次加工」が見られる。	
10	6B 57	縫付き石刃	CBI	ST	ST-4	VI	背面の側縁に沿って、交叉方向の側縁削と顎側面削と見られる小剝離面がある。打面は剥打面で側縁角は105度。末端部は折断する。	
11	6B 64	縫付き石刃	CBI	ST	ST-4	VI	背面の側縁に沿って、交叉方向の側縁削と顎側面削と見られる小剝離面がある。打面部は欠損する。左側縁と末端部に自然面がある。	
12	6H 14	石刃	Bi	An	An-10	V	打面は複側縁削面で、側縁角は100度。末端部は折断する。	
13	6C 40	石核	Co	Ob	Ob-1	IVb	單側面削打面とし、縫長削片を剥離した石核。側縁角は97度。木塊部に複数の小剝離面がある。	
14	6C 154	石核	Co	ST	ST-3	V	小形の剥片を剥離した石核。打面は平坦な單側面削で側縁角は100°～110度。	
15	6C 307	石核	Co	Ch	Ch-11	V	幅広の剥片を剥離した石核。自然面を残す剥片を素材とし、背面、腹面とともに剥片側面を削る。背面側は單側面削打面で側縁角は121度。腹面側は自然面打面で側縁角は111度。	
16	6H 125	原石	麻石	Ch	Ch-12	VI	扁平な両面難で、表面に小さな剝離面が多数みられるが、いずれも摩擦しており、軽石として移動した際にできたものと思われる。上端の剝離面は比較的新鮮であるが、摩耗を受けている、人為的剝離かは不明である。	
17	6H 116	原石	麻石	Ch	Ch-10	VI	円錐面で、剝離面はない。表面に爪形のキズが見られる。	

占め、次いで黒曜石、チャートの割合が高くなっている。ほかに少量であるが多様な石材が用いられている。⑤石核から剥片の剝離技術を見ると、打面調整はほとんどおこなわれず、寸まりの縦長削片や幅広の剥片が剥離されている。しかし、石刃や縫付き石刃の存在から、石刃技法による石刃剝離がおこなわれていたことが推測できる。

過去に町内で発掘調査された遺跡から類例を求めるに、当然のことながら、貫ノ木遺跡内での調査区に隣接して調査されている金氏住宅地点（信濃町教育委員会、1995）と一般国道18号（野尻バイパス）関連で調査された調査（長野県埋蔵文化財センター、1998）に同様の遺物が見出せる。前者では上II最下部文化層の一部と上II上部～黒色帶文化層の一部から出土した遺物に、後者ではVa層から出土した遺物に類似がある。ほかに裏ノ山遺跡の出土遺物から設定された裏ノ山II石器文化（長野県埋蔵文化財センター、2000c）が類似する。よって、谷（2007）による野尻湖編年の第Ⅱ期に属し、南関東のVI、VII層階層に対比しておきたい。

本報告書内で先述した帝石バイオブライアン地点も同時期の石器群であるが、若干の相違点が見られる。97道路改良地点には石斧を含んでおらず、また、石刃が定形化していく状況が見られることから、両者は同時期に属するものの、帝石バイオブライアン地点がやや古く位置づけられるものと思われる。

3. 繩文時代以降

A. 出土層準と遺物の分布

繩文時代以降の遺物は34点出土した。内訳は繩文土器31点、珠洲焼が1点、繩文時代の石器が2点である。1点を除き、ほかすべてがII層から出土した。繩文時代の遺物の分布は大きく3ヶ所にまとまりが見られる（図38）が、遺物はほぼ同時期のものであり、3ヶ所の性格の違いは見出せなかった。石器は2点で、周囲から出土している土器と同時期のものと思われる。ほかに珠洲焼の擂鉢の破片が1点出土した（図39）。

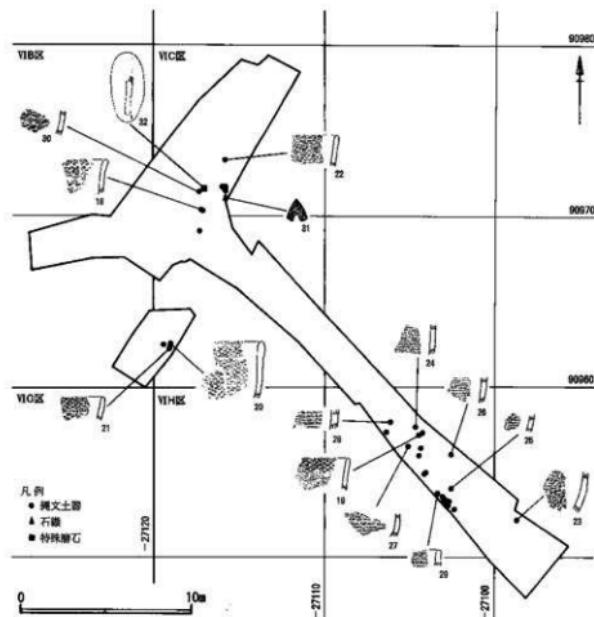


図38 貫ノ木遺跡(97道路改良地点)の縄文時代の遺物分布



図39 貫ノ木遺跡(97道路改良地点)の珠洲施の分布

B. 遺構

土坑2基が、隣接して検出された(図40)。土坑1は隅丸方形の平面形を呈し、遺構検出面で長さ約100cm、幅約80cm、深さ約50cmである。底面は平らでそのほぼ中央に逆茂木痕があり、深さが約40cmである(図41)。上坑2は調査範囲外へ続いているため、全體の平面形は確認できなかったが、直径110cm程の円形と推定される。遺構検出面からの深さは約50cmで、底面の北側に逆茂木痕と思われる穴があり、深さは25cm程である(図41)。

これらの土坑は平面形と逆茂木痕があることから、陥穴と考えられる。

C. 縄文時代の遺物 (図42~43、表18~19)

縄文土器は31点出土し、文様による内訳は押型文の山形文が1点、押型文の梢円文が9点、押型文の平行文が5点、燃糸文が10点、縄文が1点、無文が5点である(表18)。図42の18は押型文の山形文で、比較的大く、横位の帶状施文である。19~23は梢円文(穀粒文)で、19は帯状施文、20~23は密接施文である。24~28は押型文の平行文、29~30は燃糸文である。多くの土器に纖維が含まれていた。



図40 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の土坑の位置

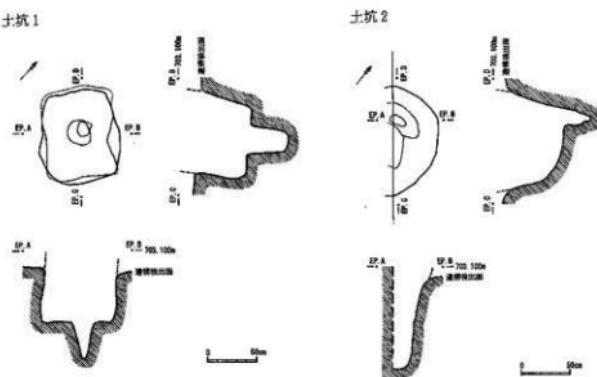


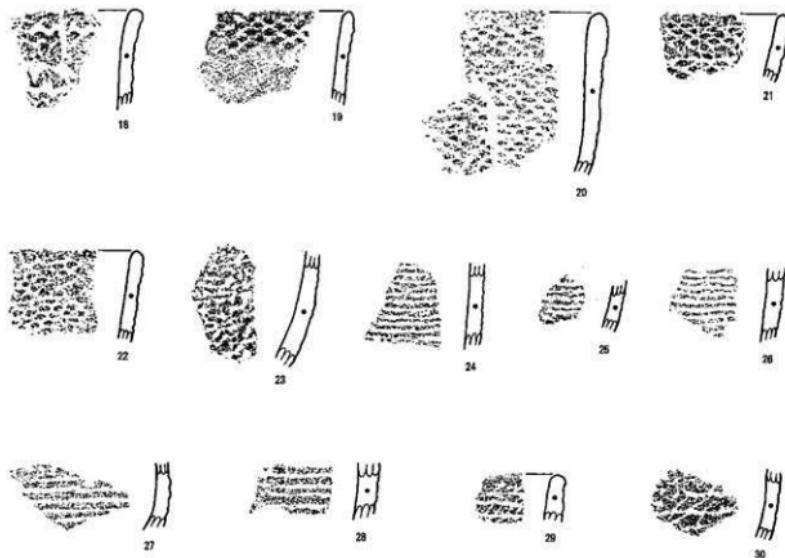
図41 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の土坑

石器は2点出土した。図43の31はチャート製の凹基無茎縁の完形品である。32は特殊磨石で、細長い磨り面が1ヶ所で観察される。

以上の土器と石器は縄文時代早期中葉のほぼ1時期の遺物と考えられる。

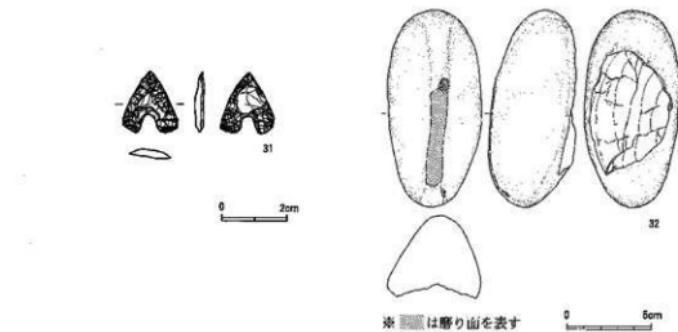
D. 中世の遺物（図44、表20）

珠洲焼の擂鉢の破片が1点出土した。内面の御し目は直線的であるが、密接に施されていない。この土器のみで時期を考察すれば、吉岡（1994）の編年の中段階（第III・IV期）にあたり、およそ14世紀の所産と考えておきたい。



※・は胎土に繊維を含む上器を表す

図42 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の主な出土遺物4（縄文土器）



※■は磨り面を表す

図43 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の主な出土遺物5（石錠、特殊磨石）

表18 貢ノ木遺跡(97道路改良地点) 繩文七器の観察表

図 面 番 号	遺物番号	部位	山 面 の形	標高 (m)	文様	調整	出土合着物	繩文瓶	色調		器壁 厚さ (mm)	縫合	X 座標	Y 座標
									外側	内側				
18	VIC 6 C 90	口縫部	H	703.866	山形文(火い)内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 水晶 青(少量)	明赤褐色	緑	6		90970.564	-27117.146		
19	VIH 6 II 70	口縫部	H	703.052	縄文文(斜波文) 内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(少量)	明褐色	明褐色	7		90971.263	-27104.409		
20	VIC 6 C 330	口縫部	H	703.608	縄文文(斜波文) 内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	明褐色	にない黄褐色	7		90962.616	-27119.015		
21	VIC 6 C 403	口縫部	H	703.574	縄文文(斜波文) 内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない黄褐色	にない黄褐色	7		90962.568	-27119.028		
22	VIC 6 C 146	口縫部	H	703.876	縄文文(斜波文) 内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(少量)	にない黄褐色	にない黄褐色	6		90971.481	-27115.795		
23	VIH 6 H 11	胸部	H	703.713	縄文文(斜波文) 内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	明褐色	にない褐色	7		90952.278	-27098.702		
24	VIH 6 H 69	胸部	H	703.970	平行	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(少量)	褐色	7		90951.760	-27104.668		
25	VIH 6 H 27	胸部	H	705.297	平行	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(少量)	褐色	6		90954.198	-27102.538		
26	VIH 6 H 54	胸部	H	703.163	平行	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	褐色	7		90955.155	-27102.506		
27	VIH 6 H 73	胸部	H	703.181	平行	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 水晶 青(中量)	浅黄褐色	7		90951.893	-27104.893		
28	VIH 6 H 66	胸部	H	703.110	平行	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	浅黄褐色	9		90954.046	-27106.136		
29	VIH 6 H 42	口縫部	H	703.516	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	浅黄褐色	7		90953.530	-27102.897		
30	VIC 6 C 104	胸部	H	703.885	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない黄褐色	6		90911.183	-27117.449		
VIC 6 C 72	胸部	H	703.726	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 水晶 青(中量)	無	明褐色	8		90969.322	-27117.245		
VIC 6 C 122	胸部	H	703.804	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 水晶 青(中量)	無	褐色	7		90971.641	-27115.772		
VIC 6 C 123	胸部	H	703.764	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 水晶 青(中量)	無	明褐色	7		90971.876	-27115.797		
VIC 6 C 124	胸部	H	703.788	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない黄褐色	7		90971.956	-27116.711			
VIC 6 C 331	腰部?	H	703.583	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 水晶 青(中量)	無	褐色	7		90962.813	-27119.540		
VIIH 6 H 35	胸部	H	703.455	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない褐色	6			90952.969	-27102.436		
VIIH 6 H 36	胸部	H	703.546	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 水晶 青(少量)	にない褐色	7			90953.263	-27102.730		
VIIH 6 H 37	胸部	H	703.540	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない褐色	5			90953.395	-27102.738		
VIIH 6 H 38	胸部	H	703.540	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない褐色	7			90953.397	-27102.731		
VIIH 6 H 39	胸部	H	703.446	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない褐色	7			90953.378	-27102.699		
VIIH 6 H 49	胸部	H	703.477	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない褐色	6			90953.339	-27102.820		
VIIH 6 H 41	胸部	H	703.699	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない褐色	7			90953.369	-27102.838		
VIIH 6 H 42	胸部	H	703.516	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない褐色	7			90953.530	-27102.967		
VIIH 6 H 43	胸部	H	703.436	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない褐色	8			90953.068	-27104.093		
VIIH 6 H 48	胸部	H	703.436	縄文文(斜波文)	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(中量)	にない褐色	7			90955.074	-27104.130		
VIIH 6 H 53	胸部	H	703.268	縄文文(斜波文)	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 水晶 青(少量)	褐色	10			90957.462	-27104.230		
VIIH 6 H 67	胸部	H	703.097	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 水晶 青(少量)	にない黄褐色	8			90957.502	-27105.566		
VIIH 6 H 74	胸部	H	703.246	無文	内ナデ	ho qt シロ アカ レキ 青(少量)	にない黄褐色	7			90956.055	-27104.372		

ho: 黒陶石、qt: 右灰、bt: 黑底陶、シロ: 白色岩片、アカ: 赤色岩片、レキ: 2 mm 以上の小礫、水晶: 2 mm 以上の結晶を表す

表19 貢ノ木遺跡(97道路改良地点) 土な石器の観察表2

図 面 番 号	遺物番号	遺物名	標高 経度	石材 番号	母岩	出土 場所	石器の特徴		
							外側	内側	裏面
31	6C 121	石鏡	AH	Ch	Ch-11	H	圓基無環。完形品。		
32	6C 108	特殊磨石	GS	And		H	細長く、断面が△形の西刀彫の後線線上に幅1cm 前後の唇面が観察される。 裏面は削れ目等となっている。		

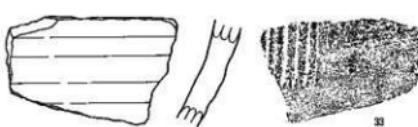


図44 貢ノ木遺跡(97道路改良地点) の主な出土遺物 6(珠洲焼)

表20 貢ノ木遺跡(97道路改良地点) 珠洲焼の観察表

図 面 番 号	グ リ ッ ド	遺物番号	器種	部位	さ有物	出土 場所	標高 (m)	色調 (外側 内側)	芯壁 厚さ (mm)	製作痕跡	X 座標	Y 座標
33	VIC 6 C 303	擂鉗	胸部	qt	シロ アカ レキ	H 上	703.704	灰 灰	8-11	外側ヨコナギナード 内側凹部1単位7条以上	90962.378	-27108.161

qt: 石灰、シロ: 白色岩片、アカ: 赤色岩片、レキ: 2 mm 以上の小礫を表す

V まとめ

本報告書は、帝国石油株式会社の天然ガスパイプライン敷設に先立って実施した星光山荘 A 遺跡、貫ノ木遺跡、道路改良に先立って実施した貫ノ木遺跡の発掘調査の内容である。成果については以下のようにまとめることができる。

1. 星光山荘 A 遺跡では遺構は検出できず、遺物が 3 点出土したのみであり、調査地は遺跡の縁辺部と考えられる。遺物は平安時代の土師器であった。

2. 贯ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）では石器 604 点、礫 76 点が出土した。これらの多くは V 層のあたりに生活面がある遺物群と判断した。AT 降灰前の 1 時期、野尻湖編年（谷、2007）の第Ⅱ期、南関東のⅦ・Ⅷ 層に対比できるものとした。

3. 贯ノ木遺跡（97 道路改良地点）では 630 点の遺物が出土した。旧石器時代の石器は 433 点、礫 161 点で、これらは V～VI 層に生活面があり、ほぼ 1 時期の遺物群と判断した。AT 降灰前の野尻湖編年（谷、2007）の第Ⅱ期に属すると思われるが、帝石パイプライン地点の石器群よりもやや新しいと考えられ、南関東のⅧ・Ⅸ 層に対比できるものとした。

4. 贯ノ木遺跡（97 道路改良地点）では 31 点の縄文土器と 2 点の縄文時代の石器が出土した。これらは早期中葉に位置づけられる。

工事の性格上、幅の狭い範囲を調査したため、石器群全体の様子を十分に捉えることができなかつたが、野尻湖遺跡群の旧石器時代前半期の遺跡の調査例として新たに 2 地点の状況を加えることができたことが成果といえよう。

文献

- 小山正忠・竹原秀雄 1967 「新版 標準土色鉢」
信濃町教育委員会 1995 「貫ノ木遺跡・日向林 B 遺跡（個人住宅地点）発掘調査報告書」
信濃町教育委員会 2001 「仲町遺跡・貫ノ木遺跡」
信濃町教育委員会 2003 「信濃町の遺跡分布図」
信濃町教育委員会 2007 「上ノ原遺跡・東裏遺跡・裏ノ山遺跡」
谷利隆 2007 「野尻湖遺跡群における先土器時代石器群の変遷」『長野県立歴史館研究紀要 第13号』
長野県埋蔵文化財センター 1998 「一般国道18号（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書 贤ノ木遺跡・西岡 A 遺跡」
長野県埋蔵文化財センター 2000a 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 一信濃町内その1—貫ノ木遺跡・西岡 A 遺跡」
長野県埋蔵文化財センター 2000b 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書16 一信濃町内その2—縄文時代～近世編」
長野県埋蔵文化財センター 2000c 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 裏ノ山遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡」
長野県埋蔵文化財センター 2004 「一般国道18号（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書2 信濃町内その2 贤ノ木遺跡・照月台遺跡」
野尻湖火山灰グループ 1993 「野尻湖の湖底ボーリング試料 NJ88 の火山灰層」『地団研専報41 中部日本における最終水期の古環境—野尻湖底ボーリングコア分析—』
野尻湖人類考古グループ 1987 「野尻湖遺跡群の旧石器・縄文草創期文化」『野尻湖の発掘4（1984～1986）』
野尻湖人類考古グループ 1990 「野尻湖遺跡群の旧石器文化II」
野尻湖人類考古グループ 1994 「野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化」『野尻湖博物館研究報告第2号』
野尻湖地質グループ 1990 「野尻湖発掘地とその周辺の地質 その6（1986～1988）」『地団研専報37 野尻湖の発掘5（1987～1989）』
野尻湖発掘調査団 1975 「野尻湖の発掘1962～1973」
吉岡康暢 1994 「中世須恵器の研究」
渡辺哲也・中村由克 1992 「信濃町貫ノ木遺跡の調査」『第5回長野県旧石器文化研究交流会—発表要旨—』

表21 貢ノ木遺跡（帝石バイブレイン地点）出土遺物一覧1（石器・その他）

品 名 記 号	材 質	形 状	寸 法 (mm)	高 度 (mm)	幅 度 (mm)	厚 度 (mm)	重 量 (g)	接合	X座標		Y座標
									右	左	
VIN 6 S 3	石	Rb Rb-1	710,260	5.0	3.4	0.9	6.1	0	20090,997	-27036,756	VIN 6 S 111
VIN 6 S 4	石	Rb Rb-2	710,260	5.0	3.4	0.9	6.1	0	20090,998	-27036,743	VIN 6 S 112
VIN 6 S 5	石	Cb Cb-1	710,592	0.9	0.6	0.4	0.2	0	20097,346	-27036,344	VIN 6 S 113
VIN 6 S 6	石	Cb Cb-2	710,592	0.9	0.6	0.4	0.2	0	20097,347	-27036,345	VIN 6 S 114
VIN 6 S 7	石	Cb Cb-3	710,628	3.8	1.6	0.7	1.8	0	20098,380	-27036,233	VIN 6 S 115
VIN 6 S 8	石	Am Am-1	711,007	1.6	2.1	0.6	1.4	0	20094,997	-27036,810	VIN 6 S 116
VIN 6 S 9	石	Am Am-2	711,007	1.6	2.1	0.6	1.4	0	20095,998	-27036,810	VIN 6 S 117
VIN 6 S 10	石	Am Am-3	711,203	2.8	1.7	0.6	0.5	0	20095,998	-27036,810	VIN 6 S 118
VIN 6 S 11	石	Am Am-4	711,203	2.8	1.7	0.6	0.5	0	20095,998	-27036,810	VIN 6 S 119
VIN 6 S 12	石	Am Am-5	711,203	2.8	1.7	0.6	0.5	0	20095,998	-27036,810	VIN 6 S 120
VIN 6 S 13	石	Am Am-6	711,203	2.8	1.7	0.6	0.5	0	20095,998	-27036,810	VIN 6 S 121
VIN 6 S 14	石	Am Am-7	712,910	3.1	2.0	0.8	4.9	0	20071,194	-27026,103	VIN 6 S 122
VIN 6 S 15	石	Am Am-8	712,912	3.6	2.5	0.9	5.8	0	20071,195	-27026,103	VIN 6 S 123
VIN 6 S 16	石	Ch Ch-1	713,308	2.8	1.6	0.8	5.5	0	20088,111	-27026,817	VIN 6 S 124
VIN 6 S 17	石	Ch Ch-2	713,308	2.8	1.6	0.8	5.5	0	20088,112	-27026,817	VIN 6 S 125
VIN 6 S 18	石	Am Am-9	713,308	2.8	1.6	0.8	5.6	0	20088,172	-27026,208	VIN 6 S 126
VIN 6 S 19	石	Am Am-10	713,406	2.8	1.6	0.8	5.5	0	20088,173	-27026,208	VIN 6 S 127
VIN 6 S 20	石	Am Am-11	713,406	2.8	1.6	0.8	5.5	0	20088,174	-27026,208	VIN 6 S 128
VIN 6 S 21	石	Am Am-12	713,154	3.7	2.6	2.2	35.2	0	20097,459	-27026,864	VIN 6 S 129
VIN 6 S 22	石	Ch Ch-3	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,280	-27026,363	VIN 6 S 130
VIN 6 S 23	石	Ch Ch-4	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,281	-27026,363	VIN 6 S 131
VIN 6 S 24	石	Am Am-13	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,282	-27026,363	VIN 6 S 132
VIN 6 S 25	石	Am Am-14	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,283	-27026,363	VIN 6 S 133
VIN 6 S 26	石	Am Am-15	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,284	-27026,363	VIN 6 S 134
VIN 6 S 27	石	Am Am-16	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,285	-27026,363	VIN 6 S 135
VIN 6 S 28	石	Am Am-17	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,286	-27026,363	VIN 6 S 136
VIN 6 S 29	石	Am Am-18	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,287	-27026,363	VIN 6 S 137
VIN 6 S 30	石	Am Am-19	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,288	-27026,363	VIN 6 S 138
VIN 6 S 31	石	Ob Ob-1	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,289	-27026,363	VIN 6 S 139
VIN 6 S 32	石	Ob Ob-2	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,290	-27026,363	VIN 6 S 140
VIN 6 S 33	石	Ob Ob-3	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,291	-27026,363	VIN 6 S 141
VIN 6 S 34	石	Ob Ob-4	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,292	-27026,363	VIN 6 S 142
VIN 6 S 35	石	Ob Ob-5	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,293	-27026,363	VIN 6 S 143
VIN 6 S 36	石	Ob Ob-6	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,294	-27026,363	VIN 6 S 144
VIN 6 S 37	石	Ob Ob-7	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,295	-27026,363	VIN 6 S 145
VIN 6 S 38	石	Ob Ob-8	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,296	-27026,363	VIN 6 S 146
VIN 6 S 39	石	Ob Ob-9	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,297	-27026,363	VIN 6 S 147
VIN 6 S 40	石	Ob Ob-10	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,298	-27026,363	VIN 6 S 148
VIN 6 S 41	石	Ob Ob-11	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,299	-27026,363	VIN 6 S 149
VIN 6 S 42	石	Ob Ob-12	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,300	-27026,363	VIN 6 S 150
VIN 6 S 43	石	Ob Ob-13	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,301	-27026,363	VIN 6 S 151
VIN 6 S 44	石	Ob Ob-14	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,302	-27026,363	VIN 6 S 152
VIN 6 S 45	石	Ob Ob-15	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,303	-27026,363	VIN 6 S 153
VIN 6 S 46	石	Ob Ob-16	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,304	-27026,363	VIN 6 S 154
VIN 6 S 47	石	Ob Ob-17	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,305	-27026,363	VIN 6 S 155
VIN 6 S 48	石	Ob Ob-18	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,306	-27026,363	VIN 6 S 156
VIN 6 S 49	石	Ob Ob-19	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,307	-27026,363	VIN 6 S 157
VIN 6 S 50	石	Ob Ob-20	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,308	-27026,363	VIN 6 S 158
VIN 6 S 51	石	Ob Ob-21	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,309	-27026,363	VIN 6 S 159
VIN 6 S 52	石	Ob Ob-22	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,310	-27026,363	VIN 6 S 160
VIN 6 S 53	石	Ob Ob-23	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,311	-27026,363	VIN 6 S 161
VIN 6 S 54	石	Ob Ob-24	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,312	-27026,363	VIN 6 S 162
VIN 6 S 55	石	Ob Ob-25	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,313	-27026,363	VIN 6 S 163
VIN 6 S 56	石	Ob Ob-26	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,314	-27026,363	VIN 6 S 164
VIN 6 S 57	石	Ob Ob-27	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,315	-27026,363	VIN 6 S 165
VIN 6 S 58	石	Ob Ob-28	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,316	-27026,363	VIN 6 S 166
VIN 6 S 59	石	Ob Ob-29	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,317	-27026,363	VIN 6 S 167
VIN 6 S 60	石	Ob Ob-30	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,318	-27026,363	VIN 6 S 168
VIN 6 S 61	石	Ob Ob-31	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,319	-27026,363	VIN 6 S 169
VIN 6 S 62	石	Ob Ob-32	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,320	-27026,363	VIN 6 S 170
VIN 6 S 63	石	Ob Ob-33	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,321	-27026,363	VIN 6 S 171
VIN 6 S 64	石	Ob Ob-34	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,322	-27026,363	VIN 6 S 172
VIN 6 S 65	石	Ob Ob-35	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,323	-27026,363	VIN 6 S 173
VIN 6 S 66	石	Ob Ob-36	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,324	-27026,363	VIN 6 S 174
VIN 6 S 67	石	Am Am-1	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,325	-27026,363	VIN 6 S 175
VIN 6 S 68	石	Am Am-2	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,326	-27026,363	VIN 6 S 176
VIN 6 S 69	石	Am Am-3	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,327	-27026,363	VIN 6 S 177
VIN 6 S 70	石	Am Am-4	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,328	-27026,363	VIN 6 S 178
VIN 6 S 71	石	Am Am-5	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,329	-27026,363	VIN 6 S 179
VIN 6 S 72	石	Am Am-6	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,330	-27026,363	VIN 6 S 180
VIN 6 S 73	石	Am Am-7	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,331	-27026,363	VIN 6 S 181
VIN 6 S 74	石	Am Am-8	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,332	-27026,363	VIN 6 S 182
VIN 6 S 75	石	Am Am-9	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,333	-27026,363	VIN 6 S 183
VIN 6 S 76	石	Am Am-10	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,334	-27026,363	VIN 6 S 184
VIN 6 S 77	石	Am Am-11	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,335	-27026,363	VIN 6 S 185
VIN 6 S 78	石	Am Am-12	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,336	-27026,363	VIN 6 S 186
VIN 6 S 79	石	Am Am-13	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,337	-27026,363	VIN 6 S 187
VIN 6 S 80	石	Am Am-14	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,338	-27026,363	VIN 6 S 188
VIN 6 S 81	石	Am Am-15	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,339	-27026,363	VIN 6 S 189
VIN 6 S 82	石	Am Am-16	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,340	-27026,363	VIN 6 S 190
VIN 6 S 83	石	Am Am-17	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,341	-27026,363	VIN 6 S 191
VIN 6 S 84	石	Am Am-18	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,342	-27026,363	VIN 6 S 192
VIN 6 S 85	石	Am Am-19	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,343	-27026,363	VIN 6 S 193
VIN 6 S 86	石	Am Am-20	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,344	-27026,363	VIN 6 S 194
VIN 6 S 87	石	Am Am-21	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,345	-27026,363	VIN 6 S 195
VIN 6 S 88	石	Am Am-22	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,346	-27026,363	VIN 6 S 196
VIN 6 S 89	石	Am Am-23	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,347	-27026,363	VIN 6 S 197
VIN 6 S 90	石	Am Am-24	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,348	-27026,363	VIN 6 S 198
VIN 6 S 91	石	Am Am-25	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,349	-27026,363	VIN 6 S 199
VIN 6 S 92	石	Am Am-26	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,350	-27026,363	VIN 6 S 200
VIN 6 S 93	石	Am Am-27	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,351	-27026,363	VIN 6 S 201
VIN 6 S 94	石	Am Am-28	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,352	-27026,363	VIN 6 S 202
VIN 6 S 95	石	Am Am-29	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,353	-27026,363	VIN 6 S 203
VIN 6 S 96	石	Am Am-30	713,360	1.1	1.6	0.5	0.5	0	20097,354	-27026,363	VIN 6 S 204
VIN 6 S 97	石	Am Am-31	713								

表22 貫ノ木遺跡（常石パイプライン地点）出土遺物一覧2（石器・その他）

遺物番号	種類	母石	土器	高さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	複合	X座標	Y座標	遺物番号	種類	母石	土器	高さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	複合	X座標	Y座標
VIS-S-205	PI	Ob-C	IV-c	716.677	4.6	5.4	1.4	20.6	9061.962	-27056.798	VIX-S-303	PI	An-A	IV-c	715.792	2.9	2.0	0.5	1.8	9063.296	-27056.317
VIS-S-206	PI	An-A	IV-c	715.693	1.5	1.6	0.4	1.6	9061.961	-27056.631	VIX-S-304	PI	An-A	IV-c	715.766	1.3	1.6	0.4	0.8	9063.363	-27056.511
VIS-S-207	PI	An-A	IV-c	715.467	3.8	4.4	1.0	14.8	9061.692	-27056.811	VIX-S-305	PI	An-A	IV-c	715.861	1.1	0.9	0.3	0.2	9063.363	-27056.510
VIS-S-208	Co	An-A	IV-c	715.505	4.9	5.8	2.8	74.2	9061.447	-27056.941	VIX-S-306	PI	An-A	IV-c	715.759	1.2	1.8	0.3	0.3	9063.379	-27056.810
VIS-S-209	PI	An-A	IV-c	715.548	2.5	3.8	0.7	20.1	9061.518	-27056.764	VIX-S-307	PI	An-A	IV-c	715.994	1.7	2.5	0.7	1.9	9063.296	-27056.651
VIS-S-210	PI	Ob-C	IV-c	715.578	0.9	0.1	0.1	1.1	9061.452	-27056.879	VIX-S-308	PI	An-A	IV-c	715.994	3.2	3.7	1.0	0.1	9063.332	-27056.654
VIS-S-211	PI	Ob-C	IV-c	715.959	3.9	2.0	1.0	4.6	9061.295	-27056.150	VIX-S-309	PI	An-A	IV-c	715.792	0.4	0.8	0.4	0.2	9063.510	-27056.182
VIS-S-212	PI	An-A	IV-c	715.545	3.9	3.3	1.2	10.1	9061.446	-27056.470	VIX-S-310	PI	An-A	IV-c	715.861	0.9	0.9	0.3	0.2	9063.363	-27056.510
VIS-S-213	PI	An-A	IV-c	715.709	3.4	3.9	1.4	9.8	9061.030	-27056.684	VIX-S-311	PI	An-A	IV-c	715.861	2.0	2.7	0.7	1.2	9063.379	-27056.810
VIS-S-214	PI	An-A	IV-c	715.547	1.4	1.6	0.4	9.4	9061.867	-27056.401	VIX-S-312	PI	An-A	IV-c	715.792	1.2	1.8	0.3	0.3	9063.379	-27056.810
VIS-S-215	PI	An-A	IV-c	715.494	1.9	3.7	0.7	3.0	9061.964	-27056.853	VIX-S-313	PI	An-A	IV-c	715.792	1.2	1.8	0.3	0.3	9063.379	-27056.810
VIS-S-216	PI	An-A	IV-c	715.494	1.9	3.7	0.7	3.0	9061.964	-27056.853	VIX-S-314	PI	An-A	IV-c	715.792	1.2	1.8	0.3	0.3	9063.379	-27056.810
VIS-S-217	PI	Ob-C	IV-c	715.548	2.5	3.8	0.7	20.9	9061.045	-27056.790	VIX-S-315	PI	An-A	IV-c	715.792	1.2	1.8	0.3	0.3	9063.379	-27056.810
VIS-S-218	PI	Ob-C	IV-c	715.579	0.3	0.2	0.1	0.1	9061.350	-27056.688	VIX-S-316	PI	An-A	IV-c	715.861	2.5	3.1	0.9	4.8	9061.641	-27051.309
VIS-S-219	PI	An-A	IV-c	715.964	1.9	3.2	0.7	2.5	9061.061	-27056.381	VIX-S-317	PI	An-A	IV-c	715.909	3.0	4.6	0.9	9.3	9063.296	-27056.510
VIS-S-220	PI	An-A	IV-c	715.743	4.0	4.6	1.8	23.0	9061.067	-27056.366	VIX-S-318	PI	An-A	IV-c	715.908	3.5	4.2	1.0	4.3	9063.297	-27056.515
VIS-S-221	PI	An-A	IV-c	715.494	2.4	2.8	0.7	1.6	9061.964	-27056.853	VIX-S-319	PI	An-A	IV-c	715.792	1.2	1.8	0.3	0.3	9063.379	-27056.810
VIS-S-222	PI	Ob-C	IV-c	715.513	1.7	2.1	0.7	1.7	9061.350	-27056.720	VIX-S-320	PI	An-A	IV-c	715.907	3.9	4.6	1.0	9.3	9063.296	-27056.510
VIS-S-223	PI	Ob-C	IV-c	715.513	2.3	2.1	0.6	1.6	9061.350	-27056.720	VIX-S-321	PI	An-A	IV-c	715.907	3.9	4.6	1.0	9.3	9063.296	-27056.510
VIS-S-224	PI	Ob-C	IV-c	715.547	2.3	3.1	0.8	8.6	9061.375	-27056.027	VIX-S-322	PI	An-A	IV-c	715.861	1.9	2.8	0.7	1.2	9063.297	-27056.349
VIS-S-225	PI	An-A	IV-c	715.742	2.1	1.8	0.6	1.6	9061.030	-27056.380	VIX-S-323	PI	An-A	IV-c	715.861	3.8	4.8	1.7	16.7	9063.297	-27056.386
VIS-S-226	PI	An-A	IV-c	715.674	2.4	2.0	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-324	PI	An-A	IV-c	715.922	1.5	0.7	0.5	0.3	9063.379	-27056.150
VIS-S-227	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-325	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-228	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-326	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-229	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-327	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-230	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-328	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-231	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-329	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-232	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-330	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-233	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-331	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-234	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-332	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-235	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-333	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-236	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-334	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-237	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-335	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-238	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-336	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-239	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-337	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-240	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-338	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-241	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-339	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-242	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-340	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-243	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-341	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-244	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-342	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-245	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-343	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-246	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-344	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-247	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-345	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-248	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-346	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-249	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-347	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-250	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-348	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-251	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-349	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-252	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-350	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-253	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-351	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-254	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-352	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-255	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-353	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-256	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-354	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-257	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-355	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6	9063.379	-27056.176
VIS-S-258	PI	An-A	IV-c	715.547	2.0	2.8	0.7	2.7	9061.964	-27056.853	VIX-S-356	PI	An-A	IV-c	715.792	6.3	4.6	1.9	45.6		

表23 貢木遺跡（帝石バイブルイン地点）出土遺物一覧3（石器・その他）

登録番号	分類	種類	石種	年代	出土地点	基盤	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	組合	X番号	Y番号	備考	石種	年代	出土地点	基盤	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	組合	X番号	Y番号	
															形態	特徴	形状	石種	時代	出土地点	基盤					
VIS-6-384	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.406	5.4	3.5	1.4	7.5		00908.610	-27055.688	11 VIS	6-500	石斧	Cb-Ob-8-VI	T10.700	1.9	4.1	0.6	5.6	W0087.797	-27060.822		
VIS-6-385	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.104	3.0	1.6	0.8	2.1		00908.614	-27055.731	12 VIS	6-501	石斧	Cb-Ob-8-VI	T10.730	3.3	5.1	0.9	7.2	W0087.518	-27061.521		
VIS-6-387	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.355	4.5	1.8	1.2	9.8		00908.729	-27055.389	13 VIS	6-502	石斧	Cb-Ob-8-VI	T10.407	1.1	6.6	4.8	55.0	W0087.620	-27062.020		
VIS-6-394	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.414	3.6	1.5	0.9	3.1		00908.734	-27055.777	14 VIS	6-504	石斧	An-Am-3-VI	T10.950	1.9	3.7	0.6	3.4	W0087.260	-27064.885		
VIS-6-391	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.400	4.2	3.6	1.3	10.6		00908.564	-27050.818	15 VIS	6-505	石斧	An-Am-3-VI	T10.820	1.9	3.6	0.7	2.2	W0087.690	-27065.822		
VIS-6-404	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.443	4.5	1.8	1.2	10.7		00908.655	-27055.402	16 VIS	6-506	石斧	Cr-Kh-9-VI	T10.150	0.8	3.1	0.2	0.1	W0087.397	-27065.129		
VIS-6-401	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.441	4.5	1.8	1.2	10.7		00908.658	-27055.405	17 VIS	6-507	石斧	An-Am-3-VI	T10.420	3.3	5.8	1.4	6.7	W0087.190	-27065.487		
VIS-6-403	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.420	3.8	1.8	1.2	9.5		00908.692	-27056.263	18 VIS	6-508	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.340	4.0	5.5	1.4	18.5	W0086.447	-27065.391		
VIS-6-404	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.541	4.8	2.0	0.8	8.5		00908.571	-27056.288	19 VIS	6-509	石斧	An-Am-3-VI	T10.450	1.7	3.8	0.8	2.0	W0086.526	-27065.634		
VIS-6-405	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.478	3.5	0.8	0.8	20.5		00908.407	-27055.538	20 VIS	6-510	石斧	An-Am-3-VI	T10.450	2.2	4.6	0.7	5.7	W0086.620	-27065.280		
VIS-6-407	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.478	3.5	0.8	0.8	20.5		00908.407	-27055.538	21 VIS	6-511	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.450	2.2	4.6	0.7	5.7	W0086.407	-27077.240		
VIS-6-408	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.448	4.7	0.5	0.8	9.8		00908.284	-27056.512	22 VIS	6-512	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.477	0.9	1.8	0.4	0.4	W0085.218	-27066.032		
VIS-6-409	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.369	8.5	6.3	1.8	7.6		00908.113	-27056.019	23 VIS	6-513	石斧	An-Am-3-VI	T10.667	5.5	5.5	1.1	18.0	W0084.917	-27067.496		
VIS-6-411	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.432	5.3	1.5	1.7	9.5		00908.633	-27056.196	24 VIS	6-516	石斧	An-Am-3-VI	T10.444	2.9	3.4	1.0	8.4	W0084.810	-27071.021		
VIS-6-412	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.360	8.8	0.8	0.8	9.8		00908.571	-27056.019	25 VIS	6-517	石斧	An-Am-3-VI	T10.400	4.4	5.6	1.0	11.8	W0084.417	-27065.139		
VIS-6-413	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.371	7.1	0.7	0.8	14.5		00908.647	-27056.772	26 VIS	6-518	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.220	2.1	0.7	0.8	0.2	W0084.687	-27062.567		
VIS-6-414	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.369	6.0	0.5	1.3	15.7		00908.657	-27056.682	27 VIS	6-519	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.177	0.6	0.2	0.1	0.1	W0084.392	-27059.496		
VIS-6-415	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.455	5.6	1.8	1.3	19.5		00908.451	-27056.435	28 VIS	6-521	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.177	1.0	0.6	0.2	0.1	W0084.657	-27060.669		
VIS-6-416	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.360	2.0	0.8	0.8	2.4		00908.651	-27056.624	29 VIS	6-522	石斧	An-Am-3-VI	T10.270	3.2	3.8	0.8	4.8	W0084.590	-27065.541		
VIS-6-417	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.479	2.0	0.8	0.8	2.4		00908.651	-27056.624	30 VIS	6-523	石斧	An-Am-3-VI	T10.270	3.2	3.8	0.8	4.8	W0084.590	-27065.541		
VIS-6-421	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.479	2.0	0.8	0.8	2.4		00908.651	-27056.624	31 VIS	6-524	石斧	An-Am-3-VI	T10.270	3.2	3.8	0.8	4.8	W0084.590	-27065.541		
VIS-6-422	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.479	2.0	0.8	0.8	2.4		00908.651	-27056.624	32 VIS	6-525	石斧	An-Am-3-VI	T10.270	3.2	3.8	0.8	4.8	W0084.590	-27065.541		
VIS-6-423	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.455	1.1	0.8	0.8	1.8		00908.141	-27056.264	33 VIS	6-526	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.464	2.8	3.1	0.7	5.3	W0084.687	-27060.531	-27061.365	
VIS-6-424	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.330	4.0	2.8	1.3	9.9		00908.622	-27056.961	34 VIS	6-528	石斧	An-Am-3-VI	T10.190	2.4	3.8	0.7	2.3	W0084.764	-27060.204		
VIS-6-425	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.330	4.0	2.8	1.3	9.9		00908.622	-27056.961	35 VIS	6-529	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.160	2.8	3.8	0.7	1.9	W0084.764	-27060.204		
VIS-6-426	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.330	4.0	2.8	1.3	9.9		00908.622	-27056.961	36 VIS	6-530	石斧	An-Am-3-VI	T10.165	1.5	2.2	0.5	0.3	W0084.417	-27068.516		
VIS-6-427	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.330	4.0	2.8	1.3	9.9		00908.622	-27056.961	37 VIS	6-531	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.165	1.5	2.2	0.5	0.3	W0084.417	-27068.516		
VIS-6-428	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.330	4.0	2.8	1.3	9.9		00908.622	-27056.961	38 VIS	6-532	石斧	An-Am-3-VI	T10.250	2.0	3.8	0.7	2.3	W0084.417	-27068.516		
VIS-6-429	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.330	4.0	2.8	1.3	9.9		00908.622	-27056.961	39 VIS	6-533	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.250	2.0	3.8	0.7	2.3	W0084.417	-27068.516		
VIS-6-430	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.057	5.5	2.6	1.4	11.9		00908.129	-27056.740	40 VIS	6-534	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.865	2.4	3.6	0.6	5.6	W0083.297	-27054.809		
VIS-6-432	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.8		00908.670	-27056.741	41 VIS	6-535	石斧	An-Am-3-VI	T10.844	1.6	3.8	0.6	0.6	W0082.391	-27054.809		
VIS-6-433	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.1	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	42 VIS	6-536	石斧	An-Am-3-VI	T10.813	2.1	3.0	0.6	0.8	W0084.345	-27064.681		
VIS-6-434	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	43 VIS	6-537	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-435	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	44 VIS	6-538	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-436	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	45 VIS	6-539	石斧	An-Am-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-437	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	46 VIS	6-540	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-438	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	47 VIS	6-541	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-439	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	48 VIS	6-542	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-440	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	49 VIS	6-543	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-441	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	50 VIS	6-544	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-442	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	51 VIS	6-545	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-443	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	52 VIS	6-546	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-444	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	53 VIS	6-547	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-445	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	54 VIS	6-548	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760	2.0	3.0	0.6	0.8	W0083.595	-27054.809		
VIS-6-446	石器	石斧	安山岩	古期	VIS-13-IV	714.061	5.0	2.0	0.8	9.7		00908.671	-27056.741	55 VIS	6-549	石斧	Ch-Cb-3-VI	T10.760								

表24 買ノ木遺跡（帝石バイオライン地点）出土遺物一覧4（石器・その他）

品目番号	フ	調査年	地名	所附	出土位置	標高 (m)	長さ (cm)	幅さ (cm)	厚さ (g)	組合	X座標	Y座標	基	フ	調査年	地名	土川系	標高 (m)	長さ (cm)	幅さ (cm)	厚さ (g)	組合	X座標	Y座標	
VIX-X-28	Pl	An-Am-14V			715.660	2.2	1.7	0.5	1.5	30087.806	-27050.591				WIX-X-40	Pl	An-Am-14V		715.816	1.5	1.6	0.5	1.4	30086.764	-27050.587
VIX-X-29	Pl	An-Am-14V			715.672	0.9	1.8	0.4	0.4	30087.822	-27050.591				WIX-X-41	Pl	An-Am-14V		715.846	2.0	1.8	0.7	1.9	30087.856	-27051.533
VIX-X-30	Pl	An-Am-14V			715.713	0.5	4.3	1.4	22.2	30087.913	-27050.510				WIX-X-42	Pl	An-Am-14V		715.909	2.7	1.1	0.6	3.4	30087.311	-27051.300
VIX-X-31	Pl	An-Am-14V			715.388	2.8	2.5	1.1	5.0	30086.351	-27050.174														
VIX-X-32	Pl	An-Am-14Vb			715.663	1.3	1.9	0.6	1.0	30086.357	-27049.973														
VIX-X-33	Pl	An-Am-14Vb			715.418	1.7	1.4	0.6	1.2	30086.358	-27049.969														
-300-																									
-200-																									
-100-																									
-50-																									
-30-																									
-20-																									
-10-																									
-5-																									
-2-																									
-1-																									
-0.5-																									
-0.2-																									
-0.1-																									
-0.05-																									
-0.02-																									
-0.01-																									
-0.005-																									
-0.002-																									
-0.001-																									
-0.0005-																									
-0.0002-																									
-0.0001-																									
-0.00005-																									
-0.00002-																									
-0.00001-																									
-0.000005-																									
-0.000002-																									
-0.000001-																									
-0.0000005-																									
-0.0000002-																									
-0.0000001-																									
-0.00000005-																									
-0.00000002-																									
-0.00000001-																									
-0.000000005-																									
-0.000000002-																									
-0.000000001-																									
-0.0000000005-																									
-0.0000000002-																									
-0.0000000001-																									
-0.00000000005-																									
-0.00000000002-																									
-0.00000000001-																									

表25 貫ノ木遺跡（童石パイプライン地占）出土磚の属性表

表26 貴ノ木遺跡（97道路改良地点）出土遺物一覽1（石器・その他）

表27 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）出土遺物一覧2（石器・その他）

表28 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）出土磚の属性表

表29 貫ノ木透跡（97道路改良地点）出土磚の属性表

グリッド番号	地名	標高 (m)	南北幅 (m)	東西幅 (m)	厚さ (cm)	重量 (kg)	割れなし率 (%)	割れ有り率 (%)	焼けなし率 (%)	焼け有り率 (%)	表面色	裏面色	形状	寸法	文様	文様	
VH1 H 19	山	705.451	2.7	1.7	1.5	4.5	○	○	○	○	80	○	80	角	9052.146	27099.617	
VH1 H 20	山	705.520	2.6	1.4	11.0	○	○	○	○	40	○	20	角	9052.150	27099.672		
VH1 H 21	山	705.162	2.9	2.1	1.6	8.9	○	10	○	○	10	○	10	角	9052.222	27099.668	
VH1 H 22	山	702.997	4.1	3.0	2.4	23.7	○	30	○	2	○	80	○	30	角	9052.541	27099.749
VH1 H 24	山	703.186	7.6	6.0	8.0	36.0	○	○	○	○	○	○	○	4	○	27099.416	
VH1 H 28	山	703.335	5.7	4.2	2.2	73.8	○	20	○	3	○	80	○	10	角	9054.261	27099.510
VH1 H 44	山	705.474	9.6	5.9	4.8	229.0	○	80	○	2	○	80	○	10	角	9054.469	27099.601
VH1 H 46	山	704.453	5.6	5.8	1.3	77.3	○	10	○	2	○	80	○	10	角	9055.026	27094.584
VH1 H 48	山	705.297	9.8	7.0	4.6	200.0	○	10	○	3	○	80	○	10	角	9055.990	27094.072
VH1 H 57	山	703.323	3.9	3.6	1.9	18.2	○	20	○	4	○	80	○	10	角	9056.965	27094.866
VH1 H 64	山	705.544	8.6	8.1	6.0	60.0	○	60	○	2	○	30	○	30	角	9056.531	27095.387
VH1 H 76	山	702.955	21.0	21.0	0.5	4.0	○	70	○	2	○	70	○	2	○	27097.328	
VH1 H 77	山	705.902	10.0	4.0	9.0	36.0	○	○	○	○	80	○	10	角	9054.455	27095.805	
VH1 H 80	山	702.997	3.1	1.7	1.4	5.3	○	70	○	1	○	80	○	10	角	9055.627	27091.711
VH1 H 81	山	702.985	9.0	5.1	5.0	185.0	○	20	○	1	○	80	○	10	丸	9055.441	27091.602
VH1 H 83	山	705.805	4.0	2.1	1.7	18.5	○	10	○	2	○	40	○	10	丸	9055.957	27074.744
VH1 H 85	山	705.097	3.7	3.6	1.4	17.4	○	80	○	1	○	80	○	10	角	9055.976	27074.041
VH1 H 86	山	705.897	2.7	1.8	0.9	3.8	○	30	○	1	○	20	○	10	角	9052.361	27070.725
VH1 H 88	山	702.962	6.0	6.0	4.0	18.0	○	10	○	2	○	80	○	10	角	9054.178	27070.367
VH1 H 89	山	702.955	10.0	2.0	0.5	2.0	○	70	○	2	○	70	○	2	○	27070.130	
VH1 H 90	山	702.008	3.8	4.5	2.2	22.0	○	40	○	2	○	80	○	10	角	9054.459	27070.060
VH1 H 91	山	702.964	4.5	6.0	6.4	446.0	○	10	○	2	○	80	○	10	角	9053.543	27070.212
VH1 H 92	山	702.940	5.5	6.4	6.4	189.0	○	70	○	2	○	80	○	10	角	9052.601	27098.351
VH1 H 93	山	702.967	3.5	5.2	1.8	36.8	○	20	○	1	○	80	○	10	角	9055.576	27098.221
VH1 H 94	山	702.964	5.2	2.4	1.4	20.9	○	70	○	1	○	80	○	10	角	9055.518	27098.366
VH1 H 96	山	705.055	5.5	5.2	0.5	66.0	○	40	○	1	○	80	○	10	角	9050.550	27098.221
VH1 H 97	山	705.055	6.0	5.2	1.8	16.9	○	30	○	1	○	80	○	10	角	9050.472	27099.154
VH1 H 98	山	702.969	3.8	5.9	2.0	25.1	○	70	○	1	○	80	○	10	角	9050.454	27099.867
VH1 H 99	山	703.440	2.1	2.3	2.1	12.7	○	40	○	1	○	80	○	10	角	9054.858	27098.634
VH1 H 102	山	705.141	3.8	2.7	1.3	13.8	○	70	○	2	○	80	○	10	角	9050.457	27098.397
VH1 H 105	山	703.167	4.0	2.7	3.3	24.5	○	70	○	2	○	80	○	10	角	9050.477	27097.919
VH1 H 107	山	705.187	2.6	1.4	0.7	2.4	○	80	○	3	○	80	○	10	角	9050.595	27098.461
VH1 H 108	山	703.167	4.0	2.7	3.3	24.5	○	70	○	2	○	80	○	10	角	9050.575	27097.905
VH1 H 110	山	704.129	16.0	14.3	7.8	200.0	○	30	○	3	○	80	○	10	角	9054.832	27098.533
VH1 H 112	山	704.129	16.0	14.3	7.8	200.0	○	30	○	3	○	80	○	10	角	9054.866	27098.330
VH1 H 113	山	703.270	5.8	3.8	2.8	56.2	○	80	○	2	○	80	○	10	角	9054.334	27097.855
VH1 H 115	山	703.419	4.1	2.4	1.8	17.4	○	30	○	1	○	40	○	30	角	9054.167	27097.892
VH1 H 116	山	703.650	3.8	3.0	1.7	11.8	○	20	○	2	○	80	○	10	角	9054.476	27097.892
VH1 H 114	山	705.324	3.1	2.8	1.6	15.3	○	70	○	2	○	50	○	30	角	9054.763	27098.143
VH1 H 115	山	705.243	10.8	4.5	4.0	40.0	○	40	○	2	○	50	○	30	角	9055.146	27098.345
VH1 H 117	山	705.529	14.0	12.3	4.4	24.0	○	50	○	2	○	50	○	30	角	9055.107	27098.429
VH1 H 121	山	702.967	4.0	2.0	1.0	37.6	○	60	○	5	○	80	○	10	角	9055.241	27098.613
VH1 H 123	山	702.945	5.0	4.1	1.1	34.7	×	80	○	2	○	80	○	10	角	9055.641	27098.187
VH1 H 122	山	702.929	5.7	5.3	2.9	43.8	○	60	○	2	○	80	○	10	角	9054.573	27098.063
VH1 H 124	山	702.905	5.5	5.1	2.8	98.8	○	10	○	2	○	80	○	10	角	9053.011	27098.304
VH1 H 125	山	702.009	4.2	5.1	1.9	34.9	○	40	○	2	○	80	○	10	角	9050.498	27099.352
VH1 H 126	山	702.503	3.7	2.2	1.7	16.7	○	70	○	2	○	80	○	10	角	9051.595	27097.892
VH1 H 130	山	702.924	4.8	3.5	2.8	40.0	○	40	○	2	○	80	○	10	角	9051.377	27098.429
VH1 H 132	山	702.924	4.8	3.5	2.8	40.0	○	40	○	2	○	80	○	10	角	9051.482	27098.065
VH1 H 133	山	702.910	4.0	2.8	2.8	39.9	○	30	○	2	○	50	○	30	角	9051.595	27098.300
VH1 H 134	山	702.910	5.7	4.3	3.0	67.5	○	70	○	3	○	80	○	10	角	9051.133	27098.040
VH1 H 135	山	702.905	5.9	4.3	3.2	162.1	○	70	○	2	○	80	○	10	角	9051.451	27097.563
VH1 H 136	山	702.460	1.7	1.3	0.7	1.2	○	30	○	2	○	80	○	10	角	9050.107	27098.465
VH1 H 137	山	702.550	4.4	3.7	1.7	16.4	○	20	○	2	○	80	○	10	角	9055.811	27095.146
VH1 H 138	山	702.924	4.0	2.8	2.8	39.9	○	40	○	2	○	80	○	10	角	9051.344	27098.153
VH1 H 139	山	702.924	4.7	4.8	4.5	204.0	○	20	○	2	○	80	○	10	角	9051.541	27098.153
VH1 H 140	山	702.921	3.7	1.5	1.4	4.8	○	80	○	2	○	80	○	10	角	9056.621	27098.236
VH1 H 141	山	702.966	3.9	2.0	1.1	6.5	○	10	○	2	○	80	○	10	角	9056.801	27098.649
VH1 H 142	山	702.871	4.6	8.4	2.5	27.1	○	10	○	1	○	30	○	10	角	9051.788	27098.141
VH1 H 143	山	702.885	5.0	3.3	2.6	44.3	○	20	○	2	○	80	○	10	角	9051.621	27098.629
VH1 H 144	山	702.827	5.6	3.5	2.7	45.2	○	40	○	2	○	30	○	10	角	9051.125	27098.563
VH1 H 145	山	702.885	5.0	3.3	2.6	44.3	○	20	○	2	○	80	○	10	角	9051.125	27098.563
VH1 H 146	山	702.885	4.7	4.3	2.7	45.2	○	40	○	2	○	80	○	10	角	9051.125	27098.563
VH1 H 147	山	702.811	3.4	3.2	4.5	47.7	○	30	○	2	○	80	○	10	角	9051.513	27098.998
VH1 H 148	山	703.014	10.4	6.8	4.8	196.0	○	40	○	1	○	10	○	10	角	9050.438	27098.995
VH1 H 149	山	702.951	4.9	3.5	2.7	51.3	○	30	○	1	○	10	○	10	角	9049.961	27098.151
VH1 H 150	山	703.058	3.9	3.9	3.6	54.9	○	40	○	1	○	10	○	10	角	9050.115	27098.631
VH1 H 151	山	703.945	3.9	2.8	2.6	24.4	○	20	○	2	○	80	○	10	角	9050.945	27098.045

写真図版 1



1. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）調査の様子（VIS グリッド周辺、南東から）



2. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）調査の様子（VIS グリッド周辺、北から）



3. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）遺物の出土状況（VIS グリッド周辺、遠景、東から）



4. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）遺物の出土状況（VIS グリッド周辺、遠景、西から）



5. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）遺物の出土状況（VIS グリッド周辺、近景、北から）



6. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）遺物の出土状況（VIS グリッド周辺、近景、西から）



7. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）錐器（図番号2）の出土状況



8. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）彫器（図番号3）の出土状況



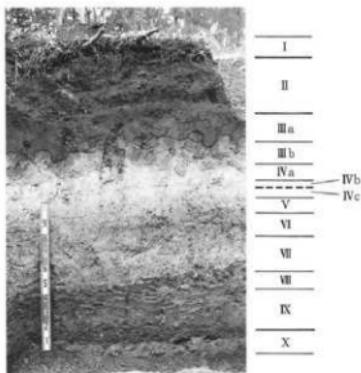
1. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）二次加工のある削片（図番号16）の出土状況



2. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）石刃石核（図番号44）の出土状況



3. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）研磨面のある石器（図番号59）の出土状況



5. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）土層



4. 貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）砥石（図番号60）の出土状況



6. 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）調査の様子（VI C グリッド周辺、遠景、北東から）

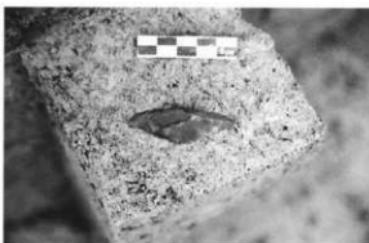


7. 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）調査の様子（VI C グリッド周辺、近景、北東から）

写真図版 3



1. 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）ナイフ形石器
(図番号1) の出土状況（遠景）



2. 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）ナイフ形石器
(図番号1) の出土状況（近景）



3. 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）土坑1、2の検出状況（南東から）



4. 貫ノ木遺跡（97道路改良地点）VIIH グリッド周辺の完掘状況（北西から）



5. 星光山荘 A 遺跡 調査の様子（遠景、東から）



6. 星光山荘 A 遺跡 TP-1 の調査の様子（南から）



7. 星光山荘 A 遺跡 TP-1 の調査の様子（北から）

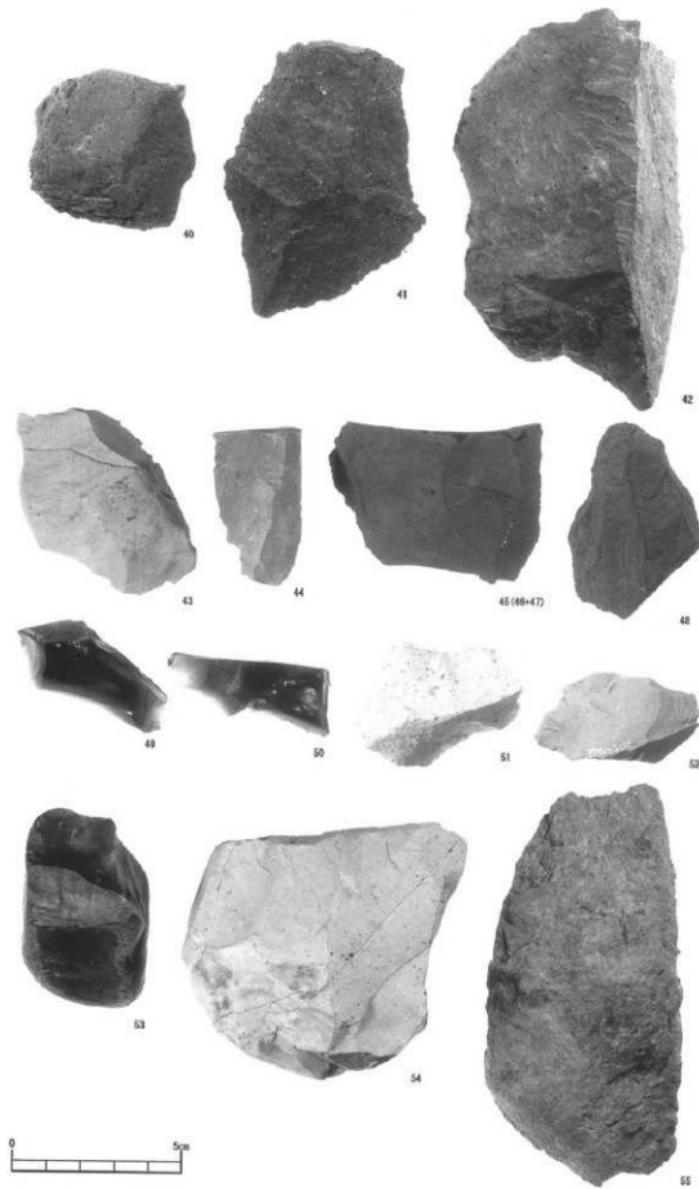


8. 星光山荘 A 遺跡 TP-3 の完掘状況（北から）

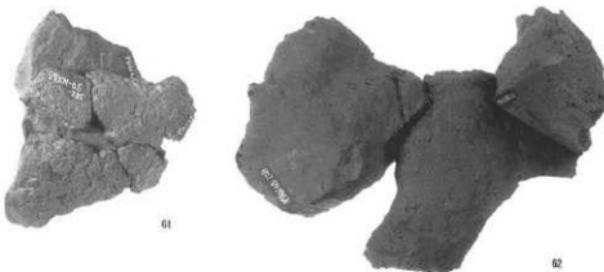
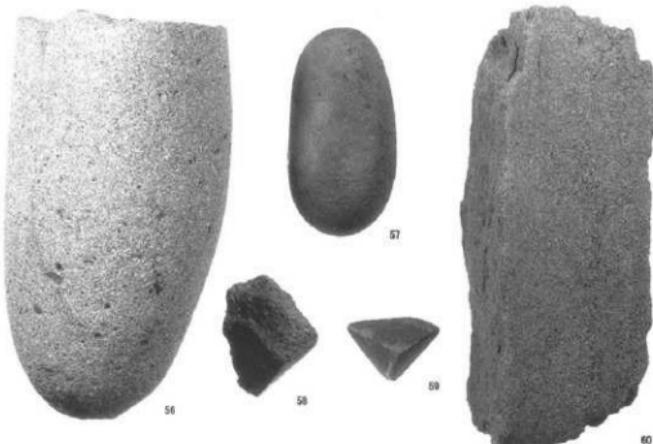


貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）の主な出土遺物 1

写真図版 5



貫ノ木遺跡（帝石バイブライン地点）の主な出土遺物 2



56～62のスケール 0 5cm
63のスケール 0 5cm
64のスケール 0 10cm

貫ノ木遺跡（帝石パイプライン地点）の主な出土遺物 3

写真図版 7



貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の主な出土遺物 1



31



33



32

31のスケール 0 2cm

33のスケール 0 5cm

32のスケール 0 5cm

貫ノ木遺跡（97道路改良地点）の主な出土遺物 2



SK-T-3



SK-T-2



SK-T-1

SK-T-2, SK-T-3のスケール 0 5cm

SK-T-1のスケール 0 5cm

星光山荘 A 遺跡の出土遺物

報告書抄録

書名	貫ノ木遺跡・星光山荘A遺跡						
ふりがな	かんのきいせき・せいこうさんそうえーいせき						
副書名	帝国石油天然ガスパイプライン敷設事業及び道路改良工事に伴う発掘調査報告書						
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財						
シリーズ番号							
編著者名	渡辺哲也						
編集機関	信濃町教育委員会						
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2 TEL: 026-255-5923						
発行年月日	2010年(平成22年)3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
貫ノ木	長野県上水内郡信濃町大字 野尻字貫ノ木1,461-1ほか	20583	47	36度 49分 17秒	138度 11分 37秒	19970418 ~ 19970625	520 パイプラ イン敷設
貫ノ木	長野県上水内郡信濃町大字 野尻字貫ノ木1,466ほか	20583	47	36度 49分 21秒	138度 11分 29秒	19970626 ~ 19970826	200 道路改良
星光山荘 A	長野県上水内郡信濃町大字 野尻字下山桑2,581-3ほか	20583	48	36度 50分 13秒	138度 11分 10秒	19970411 ~ 19970417	270 パイプラ イン敷設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
貫ノ木	散布地	旧石器時代 平安時代	礫群4基	ナイフ形石器・彫器・雜器・砥石・土師器など 682点	後期旧石器時代前半期 の石器群を検出した。		
貫ノ木	散布地	旧石器時代 縄文時代 中世	礫群4基 陥穴2基	ナイフ形石器・彫器 縄文土器・石鏡 珠洲焼など 630点	後期旧石器時代前半期 の石器群、縄文時代早期 中葉の土器群を検出 した。		
星光山荘 A	散布地	平安時代		土師器など 3点			

貫ノ木遺跡・星光山荘A遺跡

帝国石油天然ガスパイプライン敷設事業及び
道路改良工事に伴う発掘調査報告書

発行 平成22年(2010)3月31日

発行者 信濃町教育委員会

〒389-1305

長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2

TEL 026-255-5923

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037

長野県長野市西和田1-30-3

TEL 026-243-2105

Archaeological Reports of Shinano-machi

Kan-noki Site, Seikosanso A Site

2010

Shinano-machi Board of Education,
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan